

関東大震災における橋の被害と死者

東京理科大学 工学部第二部 建築学科

辻本研究室

5108018 大野 哲生

5108056 谷岡 伊織

目次

<u>第一章</u> 序説	・ ・ ・ ・ ・	2
1. 1 研究目的と背景		3
1. 2 研究方法		4
1. 3 橋の定義		5
<u>第二章</u> 東京市の橋について	・ ・ ・ ・ ・	6
2. 1 橋の概要		7
2. 2 明治・大正時代の橋		18
2. 3 東京市の橋の分類		23
<u>第三章</u> 関東大震災における橋の被害と死者	・ ・ ・ ・ ・	27
3. 1 関東大震災の被害		28
3. 2 橋の被害の概要		29
3. 3 火災による被害		35
3. 4 人的被害の概要		43
3. 5 橋の被害と死者の関係		47
<u>第四章</u> まとめ	・ ・ ・ ・ ・	73
4. 1 まとめと今後の課題		74
4. 2 謝辞		75
付録		76

第一章 序説

1. 1 研究目的と背景

橋は人々の生活のためにはなくてはならないものであり、災害時は避難において重要である。江戸時代の東京の橋は木造であり大火のたびに焼失したり、洪水による流失や破損が多かった。明治時代以降、鉄造、石造やコンクリート造の橋が増えてきたが、関東大震災において発生した火災では、木造の橋の大半は焼失し、鉄造の橋などにおいても焼失や破損等の被害が出た。そのため、避難等に大きな問題が生じたと考えられる。

本研究では、関東大震災における東京市の橋の火災被害について、どのような状況で燃え死者が発生したのか等、橋の被害と死者の関係について調査することを目的とする。

1. 2 研究方法

橋の概要・東京市の明治大正時代の橋および、関東大震災時の橋の被害と死者に関して、以下の文献により調査をした。この文献調査を基に、

(1) 橋の被害については、記載されている橋の名称・区名・所在・構造・破損状況をエクセルに入力をし、それを基に表・グラフを作成した。

(2) 橋における死者については、震災豫防調査会報告より橋際で死者が発生したものをピックアップし、延焼動態図上に位置を落とし込んだ。そして、動態図に記載されている延焼時刻や気象台の風向データ等を利用し考察をした。

これらから、橋の火災被害と死者の関係について検証する。

表 1 - 1 主な参考文献

	書名	著者	出版年
橋の概要	第二十回東京市統計年表	東京市役所	1924
	東京の橋	伊藤孝	1986
	日本の橋	社団法人日本橋梁建設協会編	1994
	中央区の橋・橋詰広場	東京都中央区教育委員会 社会教育課文化財係	1998
	橋のはなし	吉田巖	1985
	橋梁技術の変遷 道路穂算技術者のために	多田宏行	2000
橋の被害	東京震災録 中輯	東京市編	1926
	震災豫防調査会報告 第百号(戊) 関東大地震調査報文 火災編	震災豫防調査会	1925
	震災豫防調査会報告 第百号(丁) 関東大地震調査報文 建築物以外ノ工作物編	震災豫防評議会	1926
死者	震災豫防調査会報告 第百号(戊) 関東大地震調査報文火災編	震災豫防調査会	1925

1. 3 橋の定義

本研究で取り扱う橋は、「河川や水路などの水面上を通過するための構造物である」とする。本文中の引用等で「橋梁」という言葉が出てくるが、これも同等の意味である。

また、当時の橋には「市設」と「私設」があり、本研究では「市設」の橋の被害を対象にしている。

第二章 東京市の橋梁について

2. 1 橋の概要

橋の種類には、材料（鉄橋、木橋）、用途（鉄道橋、道路橋）、平面形（直線橋、曲線橋）、構造（トラス橋、アーチ橋）、通路位置（上路、下路）などにより分類される。

ここでは材料、構造、通路位置について示す。

2. 1. 1 橋の材料について

ここでは材料による分類を、「橋のはなし I」及びインターネットを引用しまとめたものを示す。

・木

古来より幾多の木橋が造られ、戦前までは「木橋」が、架橋の本流であった。しかし、戦後、木橋は「永久橋」ではないと判断され、昭和 30 年代以降、まったくかえりみられなくなった。その木橋が、工業化された木材（構造用集成木材）という新しい資材と技術を得て、再び登場したのが平成元年頃である。以来、約 700 以上の新しい木橋が、全国に建設されている。これらの木橋は、以前の伝統的木橋と区別して「近代木橋」と呼ばれている。このほか、鉄筋コンクリートや鋼材、繊維強化プラスチックなどとの複合橋も架設されている。構造としては、桁橋、トラス橋、アーチ橋を中心に各種の構造がある。

・石

石橋の構造形式にはアーチ橋や桁橋などがあるが、そのほとんどは小規模なものを除きアーチ橋である。石材は古くから橋の材料として用いられてきたが、現在では他の材料の開発も進み、新しく材料として用いられることは少なくなった。日本では、長崎の眼鏡橋や諫早の眼鏡橋などが知られている。

・鉄

鉄は加工がしやすく、強度が大きいなどの特徴から比較的支間長の長い橋によく見られる。また、複雑な形状にも対応できる。その一方で錆びが生じたり、揺れやすいといった短所もあるので、表面の塗装などの対策も必要となる。

- ・コンクリート

コンクリートは圧縮強度に比べて引張強度がおよそ 1/10 と低いため、近年はアーチ橋やごく小規模なものでのしか使用されない。

- ・鉄筋コンクリート

鉄筋コンクリートは、セメントが発明された 40 数年後の慶応 3 年（1867）にフランスの植木職人が鉄の網で補強したセメントモルタルで植木鉢を作ったのがその最初といわれ、特許も取ってある。そして、鉄筋コンクリート桁の特許が取られたのが明治 25 年（1892）、橋梁に適した T 字形桁の特許が取られたのが明治 31 年（1898）のことである。鉄筋コンクリート橋の揺籃期は、わが国が江戸幕府の鎖国から解き放された明治維新前の文明開化期を経て、明治期も後半に入ろうとした時期と重なっており、その導入は極めて早く行われた。

参考文献

橋のはなし I 吉田巖 技報堂出版

日本木橋協会 <http://www.j-timberbridge.com/>

未来を創ろう！地球を救う科学技術を学ぼう！

http://www.mirai-kougaku.jp/imagesearch/3rd/bridge_02.php

Wikipedia <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A9%8B>

2. 1. 2 構造について

ここでは構造による分類を、「橋のはなしⅠ」、「橋梁技術の変遷 道路保全技術者のために」及びインターネットを引用しまとめたものを示す。

・桁橋

いわゆる桁を水平に架けわたした最も基本的な橋。この桁を主桁といい、主桁の断面形状によってI桁橋、箱桁橋などとよばれている。また、複数の主桁を横桁で結び格子状にした格子桁橋、コンクリート床版に主桁の受け持つ力の一部を分担させる合成桁橋などもある。この形式の橋は、通常鉛直荷重による鉛直反力しか受けないため、曲げモーメントおよびせん断力によって設計される。ただし実際には横桁を配置した格子桁構造が多いため主桁や横桁の剛度、あるいは連結法にもよるが、主桁がねじられることになり、曲げモーメントおよびせん断力のほかにねじりモーメントという力を考慮する場合もある。



写真1 栃木県 鬼怒川橋

<http://www.jbsi.co.jp/works/04.html>

・トラス橋

細長い部材の両端をヒンジ結合して三角形に組み立てたものをトラスとよんでいるが、桁橋の主桁の代わりにこのトラスを用いたのがトラス橋である。

トラスには部材の組み方を考案した人の名前を取った、ハウトラス、プラットトラス、ワーレントラスなど、多くの形がある。

トラス橋は各部材の結合点に荷重が作用し、しかも格点^(注)はヒンジと仮定するため、各部材には軸力のみが作用するとして設計されていた。最近のトラス橋は、格点がガゼットプレートとよばれる部材で剛に連結されているため、必ずしも本来のトラス橋と同じではないが、剛結合の影響による力の補正や、あらかじめ曲げモーメントとせん断力を考慮して設計されているのが実情である。



写真2 中央区 相生橋

<http://www.panoramio.com/photo/60777919>

(注) 格点・・・部材と部材との交点、節点のこと

・アーチ橋

古代ローマの水道橋、長崎の眼鏡橋などに代表されるような、きわめて優美な曲線をもった形の橋である。

アーチは軸力のほかに曲げモーメントとせん断力が作用するが、アーチを比較的細い部材にして、アーチに軸力のみを受け持たせ、曲げモーメントとせん断力は別に設けた桁（あるいはトラス）に受け持たせる形の橋をランガー橋という。さらに、アーチと桁（あるいはトラス）にそれぞれ軸力、曲げモーメント、せん断力を分担させる形式のアーチ橋をローゼ橋という。これらは補剛アーチあるいは複合アーチと名づけられているが、本来は桁橋あるいはトラス橋をアーチ部材によって補剛した形式の橋とも考えられる。

また、アーチの曲線としては、一般的に円、多心円、放物線、楕円などが用いられる。



写真3 八王子市 長池見附橋（旧四谷見附橋）

<http://m-collection.blog.so-net.ne.jp/2011-09-16>

- ・ラーメン橋

桁と橋脚を剛結合した形の橋で、アーチと同様、支点に水平反力あるいは固定モーメントが作用する。各部材も軸力曲げモーメントせん断力に対して設計され、角ばったアーチ橋のようなものである。



写真 4 長野県 岡谷高架橋

<http://www.jbsi.co.jp/works/01.html>

・斜張橋

斜張橋は、支間が大きくなって主桁だけでは荷重を支えきれない桁橋を塔から直線状に張ったケーブルで支え、見かけ上支間を小さくした連続桁橋である。桁橋であるので、当然主桁には曲げモーメントとせん断力が作用するが、ケーブルが斜めに張られているため、ケーブルに作用する軸力の水平分力がさらに軸力として主桁に作用することになる。また、ケーブル軸力の鉛直分力は塔に軸力として作用する。

最近の斜張橋は、一種の補助材であったケーブルを主部材として用い、主桁の断面あるいは重量を減らし、ますます長大化の傾向のある橋といえるであろう。



写真5 神奈川県 横浜ベイブリッジ

http://www.shutoko.jp/database/route/o_yokohane.html

- ・吊橋

吊橋は放射線状のケーブルからハンガーロープを介して床を吊った形の橋で、ケーブルが主部材としてほとんどの荷重を分担する。ただし、床を吊っただけの吊橋は、変形が大きく、地震や風などによる振動も激しいため、補剛桁あるいは補剛トラスという橋桁を設けるのが一般的である。

ケーブルの両端は、一般にアンカーレイジとよばれる巨大なコンクリートブロックに定着されるが、全長にわたって連続した補剛桁を用い、ケーブルの両端を補剛桁の両端と結合して、ケーブル軸力の水平分力をつり合わせた形もある。



写真6 港区 レインボーブリッジ

http://blogs.dion.ne.jp/odaiba_diary/archives/2751424.html

2. 1. 3 通路位置について

ここでは通路位置による分類を、「橋のはなしⅠ」、「橋梁技術の変遷 道路保全技術者のために」及びインターネットを引用しまとめたものを示す。

・上路式

デッキトラスともいう。上弦が載荷弦となっているもので、桁内を通行することがないため、主構（上・下弦材およびそれらを結ぶ垂直材・斜材。即ち桁の側面）同士をつなぐ対傾構を設置することで強度を増すことができる。また桁の高さの分だけ橋脚の高さを抑えることができるため、経済的である。桁下に十分な空間がある場合などに採用される。道路橋の場合は、下路式に比べてトラスが自動車運転者の視界を妨げないという利点がある。



写真7 栃木県 黒鉄橋 <http://tabikappa.blog55.fc2.com/blog-entry-1439.html>



写真8 稲城市 上谷戸大橋 <http://hwm2.gyao.ne.jp/kappaclub/bridge-index.html>

- ・下路式

スルートラスともいう。下弦が載荷弦となっていて、主構の内部を通行する。跨線橋や跨道橋、河川横断部など桁下の空間に余裕が少ない場合に採用される。道路橋の場合、トラス内部を自動車が通行することになるため、運転者の視界を狭めてしまう短所がある。鉄道橋の場合は考慮されない。



写真 9 品川区 天王洲ふれあい橋

<http://tabikappa.blog55.fc2.com/blog-entry-128.html>



写真 10 中央区 永代橋

<http://hwm2.gyao.ne.jp/kappaclub/bridge-index.html>

参考文献

橋のはなし I 吉田 巖 技報堂出版 1985

橋梁技術の変遷 道路保全技術者のために 多田宏行 鹿島出版会 2000

Wikipedia

写真

鬼怒川橋	http://www.jbsi.co.jp/works/04.html
相生橋	http://www.panoramio.com/photo/60777919
長池見附橋	http://m-collection.blog.so-net.ne.jp/2011-09-16
岡谷高架橋	http://www.jbsi.co.jp/works/01.html
横浜ベイブリッジ	http://www.shutoko.jp/database/route/o_yokohane.html
レインボーブリッジ	http://blogs.dion.ne.jp/odaiba_diary/archives/2751424.html
黒鉄橋	http://tabikappa.blog55.fc2.com/blog-entry-1439.html
上谷戸大橋	http://hwm2.gyao.ne.jp/kappaclub/bridge-index.html
天王洲ふれあい橋	http://tabikappa.blog55.fc2.com/blog-entry-128.html
永代橋	http://hwm2.gyao.ne.jp/kappaclub/bridge-index.html

2. 2 明治・大正時代の橋

関東大震災時に存在した多くの橋は、明治・大正時代に架けられた橋である。その時期の橋の材料・構造等の概要を示す。

明治時代の橋について「東京の橋」より引用すると、以下の通りである。

明治維新政府の技術輸入政策は、木や石を用いて架橋していた日本の在来橋梁技術にも、大きな影響をもたらした。それを一言でいうと、新しい橋梁材「鉄」の導入と新しい橋梁タイプ「トラス橋」の登場である。材料が鉄であることは、明治初期の銀座の煉瓦街建設が不燃化都市をめざしたごとく、火災で燃えてしまう木橋にかわって不燃化橋梁を目指したものであると言えよう。トラス橋は、日本在来の木橋タイプにはない新しい橋梁タイプの出現である。これはやがて伝統的な木工技術と結びつき、「洋式木橋」と言われる木造トラスや木鉄混合トラスへと発展し、在来の木造橋梁よりも長い橋を架けられるようになった。明治の中頃より、市街地には鋼アーチ橋が架けられたが、スパンは短く、隅田川に架かる大橋梁になると、やはり外国より鋼材を輸入して造った鋼トラスであった。

以降、明治・大正期（震災前）の東京に架設された橋を、「東京の橋」・「中央区の橋・橋詰広場」を参考にして、次の4つの時期に分類し詳細を見ていく。

- ① 技術・材料・設計・架設などの面で外国人に依存した明治初期
- ② 日本人技術者によって設計が始められるようになった明治中期
- ③ 地域環境との調和を考慮し始めた明治後期
- ④ 「装飾橋梁」の普及やRC橋が登場した震災前大正期

2. 2. 1 明治初期（明治元年～明治12年頃）

この時期、全国的には外国人設計者による鉄橋の架設と輸入橋梁が中心である。明治3年（1870年）、東京でも皇居内の山里の御庭（現吹上御苑内）に山里の吊橋が架設されている。また人目にふれる所では、東京における最初の鉄橋として知られる新橋（鍊鉄桁橋）が、明治4年に架設されている。木橋が中心であった江戸期とくらべ、材料が鉄という不燃橋であることが大きな特徴である。

この流れで考えると、明治初期の石造アーチ橋も、同じ趣旨に基づくと考えられる。明治6年11月、東京市に架設された最初の石造アーチ橋である万世橋（旧名・万代橋）をはじめとし、明治12年頃までに12の石造アーチ橋が建設されることがわかっている。

石造アーチ技術は、九州地方を中心として17世紀より存在していた。しかし、その技術は、「一子相伝」という封建時代特有の技術継承方式のために、全国に広がらなかった。それが維新政府になり、九州より技術者をよびよせ、架設したのが、前掲の石造アーチ橋である。材料の石は、見附撤去後の石材を利用したと言われている。

ただし、石造アーチ橋の架設は明治10年代の前半で打ち切られた。それは、浅草橋（明治7年）において、東京下町の河口部という軟弱地盤に重い石橋を架設したため、地盤沈下を起こし橋の真ん中部分が下がってしまったためである。そのため、自重の軽い鉄橋が架設されるようになった。

そして、明治11年（1878年）11月、日本最初の国産橋梁として有名な弾正橋が楓川に架設された。

木橋に関しては、日本橋が明治6年に、歩車分離・トラス補強構造・青ペンキ塗りの洋風木橋に架け替えられた。特徴としては、それまでの反り橋に変わり、路面が平らな橋が架けられた点である。反り橋は舟運交通を考えてのことであったが、平らな橋は人力車や馬車の便を考えてのことである。日本橋はその第一号であった。

また、三十間堀川に架かる出雲橋（明治12年）は木造トラス橋で、明治時代に架けられた木造トラス橋の中で最初のものである。

2. 2. 2 明治中期（明治15年～明治30年）

この時期から、本格的に鉄橋が架けられるようになっていった。そのほとんどが錬鉄製である。また邦人技術者による設計の道路橋が現れてくるのもこの時期である。

明治15年10月竣工の錬鉄製ワーレントラスの高橋は、邦人技術者、原口要によって初めて設計された橋である。その後もボウストリングトラスの浅草橋（明治17年1月）、隅田川にかかる長さ148メートルの吾妻橋（明治20年12月）等を設計している。

以後、邦人技術者による架橋が続くが、その中心は原口要であり、他には、倉田吉嗣、原竜太、岡田武五郎らが挙げられる。橋のタイプは、トラス橋がほとんどである。

明治30年（1897年）には、道路橋としては初めての鋼橋が永代橋に架けられた。

当時のトラス橋の装飾をみると、橋門構の上に設置された橋名板とエンド・ポスト、および親柱に設置された橋灯デザインに工夫が見られる。

2. 2. 3 明治後期（明治31年～明治45年）

この時期になると、地域環境との調和に配慮した橋が登場する。新しく登場した橋のタイプは上路式の鋼アーチである。注目すべきは、市街地環境と調和する、という理由でアーチ橋が用いられた点にある。橋上に部材の骨組みがあらわれる下路式トラス橋と違い、上路式アーチ橋は橋上での眺望を360度楽しむことができる。

この間の事情を、日本橋や旧新大橋などを設計した、東京市の橋梁課長樺島正義は以下のように述べている。

「明治の中期になってからは、市街橋として架設地の条件が許すならば大抵拱橋（キョウキョウ）とした。彼の拱の優雅なる曲線は概して環境と調和し、殊に上路橋型が多いので、彼の構桁の下路橋に見るが如き、橋上の展望を阻害し、狭隘を感ぜしむるような欠点がないので、此種の橋梁は其後続々建設せられた」（拱とはアーチのこと、構とはトラスとことである）

明治31年（1898年）7月竣工の浅草橋をはじめ、新橋（同32年）、江戸橋（同34年）、京橋（同年）、万代橋（同年）は、この主旨で作られた上路式アーチである。

一方、隅田川に架かる大橋梁は、依然としてトラス橋が用いられている。それでも明治45年（1912年）に架設された新大橋の正面景には、それ以前の橋にくらべると華麗さが感じられる。橋名板の上にあるつる状の樹枝装飾、エンド・ポストの灯具と装飾、大きくとった高欄親柱の上には橋灯を配し、トラス橋の中でも全体的に装飾性を高くしていることが特徴である。

加えて、木鉄混用の洋式混合木橋が登場したのもこの時期の特徴である。市民から美観に配慮した橋の要望が多くなり、苦肉の策として考えられたのが、混合木橋であったという。外観は鉄橋にみえても、内部の桁や床部は木材である。鉄を併用した木橋は、引っ張り材を鉄棒で、圧縮材を木造で造ることになるが、必ずしも構造的に合理的な橋ばかりとは限らなかったという。なかには、千代田橋や親慈橋のように高欄だけを鉄製にした様式木橋もあった。

また、明治44年（1911年）竣工の日本橋は、主桁の構造設計と橋の装飾設計とは別で、土木家と建築家との共同作品である。構造設計は樺島正義・米元晋一、装飾設計は建築家妻木頼黄である。橋のタイプと装飾とが初めて総合的に取り組まれ完成したものである。

2. 2. 4 震災前大正期

この時期の特徴は、新しい材料であるコンクリートを利用した橋が登場したことである。大正3年、東京で最初の鉄筋コンクリートアーチ橋である鍛冶橋が竣工した。その後も大正4年に九重橋、大正8年には亀島川に架かる高橋など、震災前までに約10のコンクリート橋が架けられた。その他に、三原橋（大正5年）・新常盤橋（大正9年）など無筋のコンクリート橋も架けられた。

また明治後期から継続して装飾性の高い橋が架けられており、親柱・橋灯・高欄はもちろんのこと、橋詰や橋脚にも装飾がなされていた。この時期の設計も土木家と建築家とが共同作業行っており、現存するものでは旧・四谷見附橋（現・長池見附橋：八王子市）がある。

参考文献

「東京の橋」 伊藤孝 鹿島出版会 1986

「中央区の橋・橋詰広場」 東京都中央区教育委員会社会教育課文化財係 1998

2. 3 東京市の橋の分類

2. 3. 1 東京市の橋梁数及び面積坪数

ここでは第二十回東京市統計年表 P802～803 より、1922 年（大正 11 年）12 月 31 日時点の東京市の橋梁数及び面積坪数を、引用しまとめたものを示す。

表 2-1 東京市の橋梁数, 面積坪数

材料別	橋梁数	面積坪数
鉄橋	46	9053
木鉄混合橋	8	586
木橋	346	12988
コンクリート橋	14	521
鉄筋コンクリート橋	30	1551
石橋	148	1623
計	592	26322

（出典 第二十回東京市統計年表）

2. 3. 2 材料及び構造別、東京市の橋の例

ここでは中央区の橋・橋詰広場より、材料及び構造をもとに東京市の橋の例を示す。

表 2-2 東京市の橋の例

材料	構造	例	形式	竣工年
木橋	トラス	出雲橋	-	1879
	アーチ	新川橋	-	1917
	桁	有楽橋	-	1915
木鉄混合橋	トラス	今戸橋	ボウストリングトラス	1915
鉄橋	トラス	永代橋	曲弦プラットトラス	1897
		吾妻橋	直弦プラットトラス	1887
		鎧橋	ホイップルトラス	1887
		厩橋	ホイップルトラス プラットトラス	1893
		旧弾正橋	ボウストリングトラス	1878
		高橋	ワーレントラス	1882
		柳橋	垂直材つきダブルワーレントラス	1888
	アーチ	呉服橋	2ヒンジアーチ	1879
		皇居正門鉄橋	3ヒンジアーチ	1888
		和泉橋	スパンドレルブレースドアーチ	1892
	桁	霊岸橋	-	1916
数寄屋橋		I形桁	1904	
コンクリート橋	アーチ	新常盤橋	-	1920
RC橋	アーチ	鍛冶橋	-	1914
	桁	神宮橋	-	1920
石橋	アーチ	日本橋	-	1911

-は不明

2. 3. 3 形式の概要

それぞれの形式についての概要を、「橋のはなし I」及びインターネットを引用しまとめたものを説明する。

・ボウストリングトラス

ボウストリングトラスとは、上弦と下弦がそれぞれ弓（ボウ）と弦（ストリング）のような形状となっているもの。特に下路式の場合には端部が大きな開口部となり端部の強度に難が生じるため、現在ではほとんど採用されない。

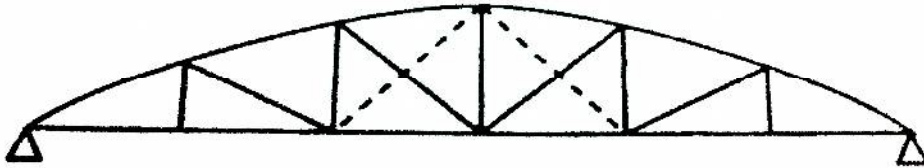


図2-1 ボウストリングトラス

・プラットトラス

プラットトラスとは、斜材を橋中央部から端部に向けて「逆ハ」の字形状に配置したものである。垂直材に圧縮力、斜材に引張力が生じる。

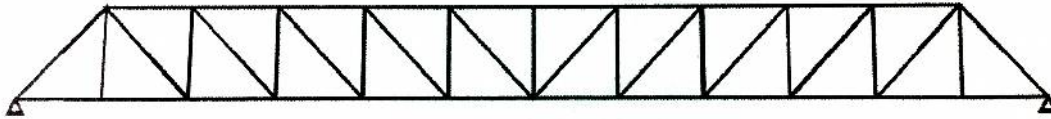


図2-2 プラットトラス

・曲弦プラットトラス

上記のプラットトラスの弦が曲がっているもの。

・直弦プラットトラス

上記のプラットトラスの弦が真っ直ぐなもの。

・ホイップルトラス

ホイップルトラスは、プラットトラスの一種で、斜材にはすべて引張力がかかる。特徴的なのは、引張力を受ける部材が長く、多くの場合には細いことである。また、トラス部分は斜材の角度が浅く、二つ以上の支柱間を跨いでいる。



図2-3 ホイップルトラス

- ・ワーレントラス

ワーレントラスとは、斜材の向きを交互にしたトラス橋。プラットトラスと異なり垂直材がないため鋼材が節約でき、安価で軽量となる。斜材は橋中央部から端部に向けて「ハ」の字にあたる部分が圧縮力を、「逆ハ」の字にあたる部分が引張力を負担する。中央の「V」字形になる部分では活加重に応じて両者を負担する。

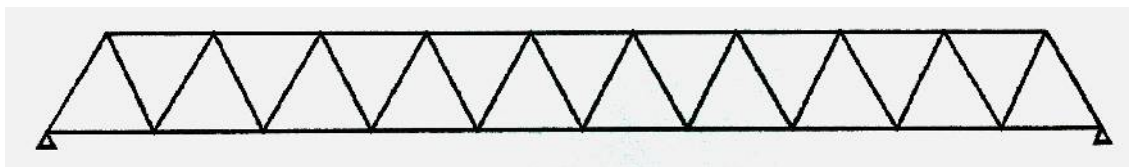


図2-4 ワーレントラス

- ・垂直材つきダブルワーレントラス

ダブルワーレントラスとは、斜材をすべて「X字形」に交差したもの。斜材への負担のかかり方は、通常のワーレントラスと変わらない。これはそれに垂直材を加えたもの。

- ・2 ヒンジアーチ

支点部に蝶番の役割を果たすヒンジ支承を設け、支点部に働くモーメントを逃がすように働くアーチ橋である。鋼ソリッドリブアーチに多く見られる形式である。

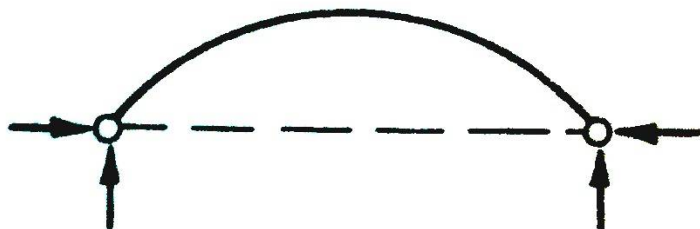


図2-5 2 ヒンジアーチ

・3 ヒンジアーチ

支点部のほか、アーチクラウン部（アーチの最高点）にもヒンジを設けた形式である。この形式は静定構造と呼ばれ、アーチ支点が仮に移動したとしても、アーチに不利な 2 次力が働かない形式である。

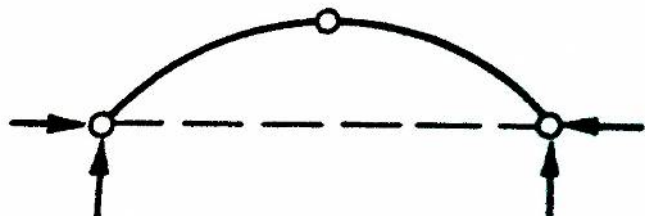


図 2-6 3 ヒンジアーチ

・スパンドレルブレースドアーチ

桁とアーチ材の間の部分をスパンドレルというが、ここにトラスを配置した形式の橋で、これはトラスの一種である。

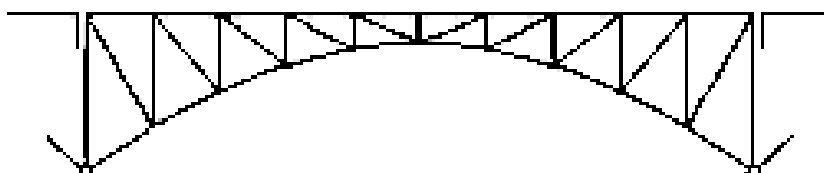


図 2-7 スパンドレルブレースドアーチ

・I 形桁

I 形鋼を使用した桁橋。

参考文献

第二十回東京市統計年表 東京市役所 1924

中央区の橋・橋詰広場 東京都中央区教育委員会社会教育課文化財係 1998

橋のはなし I 吉田巖 技報堂出版 1985

Wikipedia

http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/chiiki/shityoson/nishiusuki_shityo/bridge/information/index.html

第三章 関東大震災における橋の被害と死者

3. 1 関東大震災の被害

関東大震災は、1923年（大正12年）9月1日11時58分、神奈川県相模湾北西沖を震源として発生したマグニチュード7.9の大正関東地震による地震災害である。

この地震によって全半潰・焼失・流失・埋没の被害を受けた住家は総計37万棟以上ののぼり、全体で10万5000余名の死者・行方不明者が発生した。被害要因別の死者数（行方不明含む）を見ると、火災による死者は言うに及ばず、揺れによる住家全潰や流失・埋没被害からも膨大な数の犠牲者が発生したことが分かる。火災による死者は全体の9割近くを占める9万1781名であり、関東地震による巨大な人的被害を決定づけた第一の原因は、大規模火災であったと考えて間違いはない。

東京市15区（現在の東京都心部、山手線の内側と隅田川の両岸に相当）について見ると、住家の全潰（全潰後焼失含む）が1万2192棟に対して焼失は16万6191棟と膨大な数であり、火災被害のおよそ8割が東京市に集中した。このような東京市の大規模火災による犠牲者は6万5902名に達し、住家全潰による2758名を加えると人的被害の約65%が東京市で生じている。

表3-1は東京市における焼失面積の割合である。区別に焼失面積の割合をみると、神田、日本橋、京橋、浅草、本所、深川と15区中、6区で80%を超える。ほとんど燃やし尽くされた区も存在した。

表3-1 各区の面積と焼失面積

	全面積(m ²)	焼失面積(m ²)	焼失割合(%)
麹町	8,159,015	1,810,714	22.19
神田	3,073,898	2,885,732	93.88
日本橋	2,964,390	2,964,390	100.00
京橋	4,545,296	3,905,223	85.92
芝	9,389,808	2,236,403	23.82
麻布	3,971,544	1,544	0.04
赤坂	4,226,030	305,385	7.23
四谷	2,771,597	60,152	2.17
牛込	5,211,590	3,084	0.06
小石川	6,494,823	265,283	4.08
本郷	4,827,547	851,375	17.64
下谷	5,045,018	2,406,063	47.69
浅草	4,807,498	4,613,160	95.96
本所	6,076,846	5,759,124	94.77
深川	7,933,421	6,596,618	83.15
計	79,498,321	34,664,251	43.60

（出典 1923 関東大震災報告書【第1編】）

参考文献

1923 関東大震災報告書【第1編】中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会 2005

3. 2 橋の被害の概要

「東京震災録」（震災豫防調査會報告を基に修正を加えたもの）の P331～P340、「大正十二年九月一日震火災焼失橋梁調」に記載されている被害橋梁をデータ化し表にまとめた。また、基になっている「震災豫防調査會報告 第百號（戊）関東大地震調査報文火災編」、P52～P60の「大震火災焼燬大破橋梁調査」も参考にした。（これらの被害橋梁一覧は、付録に記載）

鉄橋に関しては、木材をほとんど使用しない耐火性の高いものは、新大橋・呉服橋・京橋の他、少数しかなく、多くは仕上げや構造部に木材を使用しており、木鉄混合橋との線引きが難しいため、これらは数字上、鉄橋として同じものとみなした。

第二十回東京市統計年表 P802～803 より、1922 年（大正 11 年）12 月 31 日時点の東京市の橋梁数及び面積坪数を表 3 - 2 に示す。

表 3 - 2 材料別、全橋梁数・面積坪数

材料別	橋梁数	面積坪数
鉄橋	54	9639
木橋	346	12988
コンクリート橋	14	521
鉄筋コンクリート橋	30	1551
石橋	148	1623
計	592	26322

（出典 第二十回東京市統計年表）

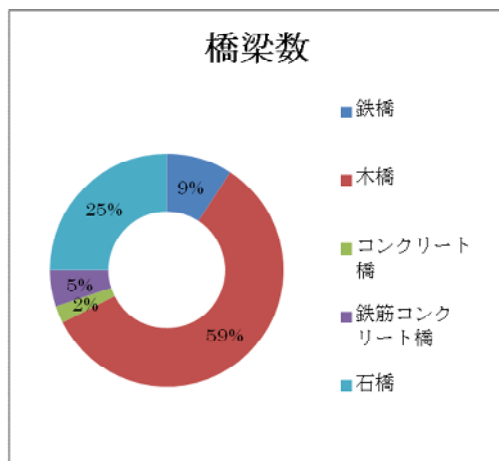


図 3 - 1 東京市の橋梁数

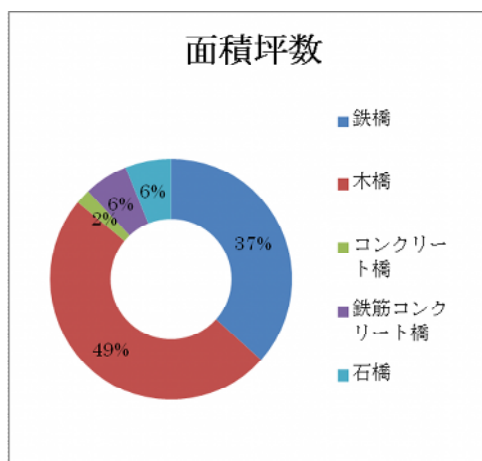


図 3 - 2 東京市の橋の面積坪数

図 3 - 1, 2 からわかるように、橋梁数及び面積坪数の半数は木造である。一方石橋は、橋梁数では 1/4 を占めるが面積坪数では全体の 6%に過ぎない。これは、石橋は主に「大下水」と呼ばれる下水に架けられており、あまり大きなものではなかったと考えられる。鉄橋は、橋梁数自体は少ないものの、隅田川など大きな川に架けられていたため面積坪数の約 4 割を占めている。

3. 2. 1 材料別、橋の被害

次に橋の被害について、材料別にまとめたものを示す。

表 3 - 3 材料別、焼失破損橋梁数

材料別	橋梁数	面積坪数	焼失数	破損数	焼失破損合計
鉄橋	54	9639	18	32	50
木橋	346	12988	195	16	211
コンクリート橋	14	521	0	3	3
鉄筋コンクリート橋	30	1551	0	8	8
石橋	148	1623	0	7	7
計	592	26322	213	66	279

(出典 第二十回東京市統計年表, 東京震災録 中輯)

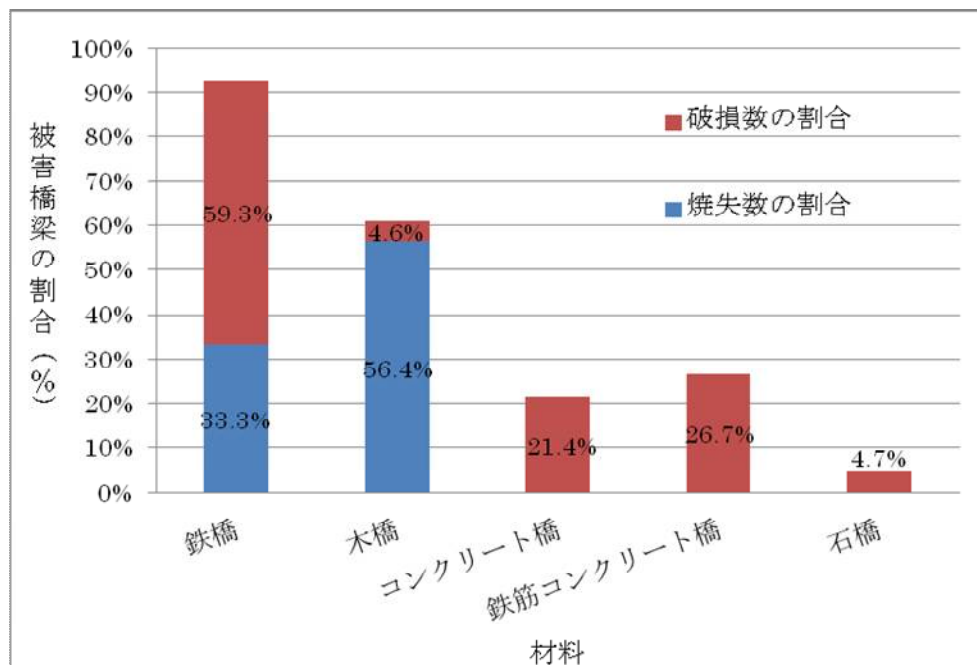


図 3 - 3 材料別、被害橋梁の割合

焼失は木橋が多く、焼失総数 213 ヲ所のうち 195 ヲ所 (約 92%) が木橋である。鉄橋は焼失・破損合わせると橋梁数 54 ヲ所のうち 50 ヲ所 (約 93%) が何らかの被害を受けていることがわかる。また、RC 橋・石橋など耐火性の高い橋は焼失範囲内にありながら焼失の被害はなかった。

なお、ここで言う破損には、火災および震害両方含まれている。ただし、震害は火災に比べ少数であり、火災区域内にあった多くの橋は何かしら火災の影響を受けている。そのため、震害を受けていても火災として分類されているものが多い。また、被害橋梁一覧では、破損は 70 ヲ所あるが、焼失と重複している橋があり、ここでは 66 ヲ所とした。

3. 2. 2 区別、橋の被害

次に橋の被害について、区別にまとめたものを示す。

表3-5 区別、橋梁数・面積坪数、及び焼失破損橋梁数

区名	橋梁数	面積坪数	焼失数	破損数	焼失破損合計
麹町	23	1998	2	7	9
神田	21	1563	9	6	15
日本橋	43	3481	31	11	42
京橋	63	3570	43	14	57
芝	62	2691	5	14	19
赤坂	21	227	3	1	4
小石川	53	1033	1	1	2
浅草	46	852	11	7	18
本所	56	3893	36	2	38
深川	74	5376	72	2	74
麻布	20	434	0	0	0
四谷	14	399	0	0	0
牛込	52	547	0	1	1
本郷	22	106	0	0	0
下谷	22	152	0	0	0
計	592	26322	213	66	279

(出典 第二十回東京市統計年表, 東京震災録 中輯)

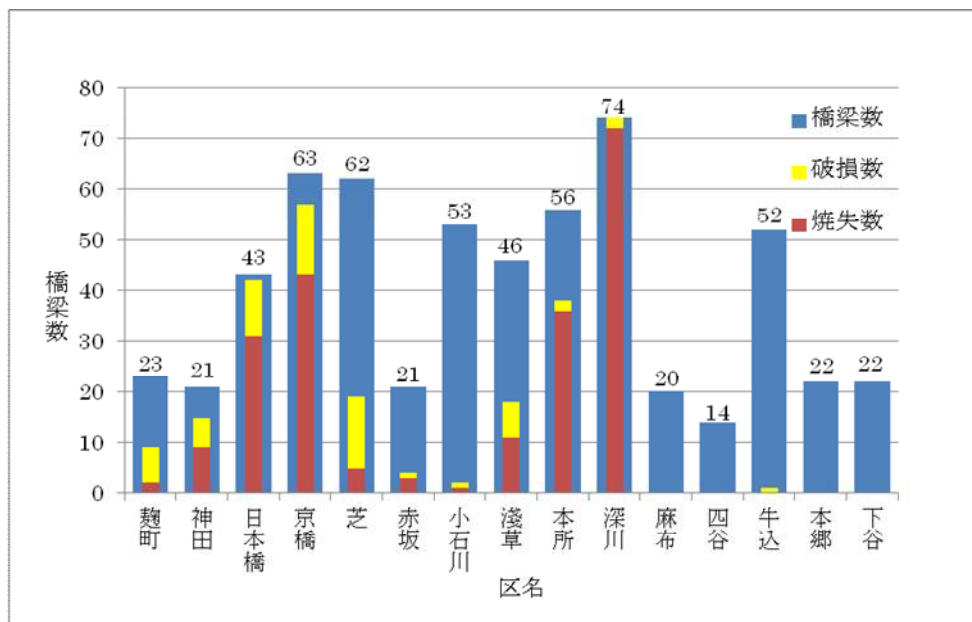


図3-4 区別橋梁数・焼失破損数

図は区別に橋梁数・焼失数・破損数をまとめたグラフである。神田・日本橋・京橋・本所・深川区ではほとんどの橋が焼失範囲内にあり被害が多く、特に日本橋・京橋・深川区は9割以上に被害が出ている。一方、浅草区も多くの橋は焼失範囲内にあったが、被害率は橋梁18ヶ所で4割となっている。

表3-5より、各区の被害橋梁の割合を算出したものを示す。

表3-6 区別、被害橋梁の割合

区名	割合(焼失数/橋梁数)	割合(破損数/橋梁数)	割合(合計/橋梁数)
麴町	8.7%	30.4%	39.1%
神田	42.9%	28.6%	71.4%
日本橋	72.1%	25.6%	97.7%
京橋	68.3%	22.2%	90.5%
芝	8.1%	22.6%	30.6%
赤坂	14.3%	4.8%	19.0%
小石川	1.9%	1.9%	3.8%
浅草	23.9%	15.2%	39.1%
本所	64.3%	3.6%	67.9%
深川	97.3%	2.7%	100.0%
麻布	0.0%	0.0%	0.0%
四谷	0.0%	0.0%	0.0%
牛込	0.0%	1.9%	1.9%
本郷	0.0%	0.0%	0.0%
下谷	0.0%	0.0%	0.0%
計	36.0%	11.1%	47.1%

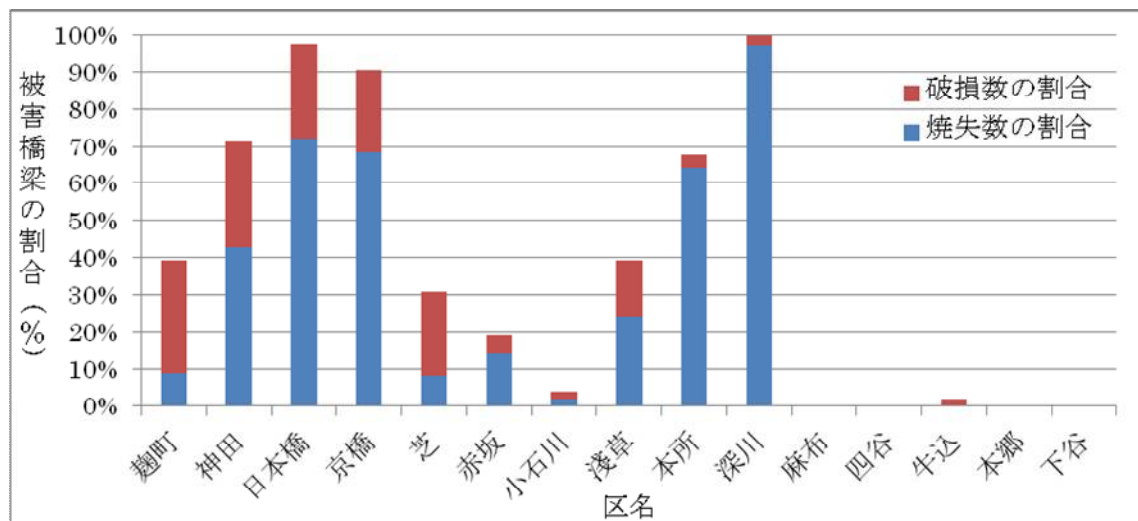


図3-5 区別、被害橋梁の割合

3. 2. 3 焼失範囲内外の分類

各区の焼失割合（表3-1）と、区別の橋の焼失破損割合（表3-6）を参考に、東京市の橋 592 ヶ所について、焼失範囲内外の分類をした。焼失範囲内に在りながら焼失していない橋の状況を知ることが目的である。作業手順は以下の通りである。

A) 区の面積の焼失割合が90%以上、または、橋の被害割合が90%以上の区

（神田区・日本橋区・京橋区・浅草区・本所区・深川区）

に関しては、延焼動態図よりわかる範囲で、焼失区域外にある橋を探し、その数を焼失範囲外の橋とする。

B) 区の面積の焼失割合が10%以下、または、橋の被害割合が10%以下の区

（麻布区・赤坂区・四谷区・牛込区・小石川区・本郷区・下谷区）

に関しては、延焼動態図よりわかる範囲で、焼失区域内にある橋を探し、その数を焼失範囲内の橋とする。

C) それ以外の区

（麹町区・芝区）

に関しては、延焼動態図よりわかる範囲で、焼失区域内にある橋を探し、その数を焼失範囲内の橋とする。

この方法により分類したものを示す。

表3-7 焼失範囲内外の分類と焼失数

区名	範囲外	範囲内	橋梁数	焼失数
麹町	14	9	23	2
神田	0	21	21	9
日本橋	0	43	43	31
京橋	2	61	63	43
芝	31	31	62	5
赤坂	21	0	21	3
小石川	51	2	53	1
浅草	2	44	46	11
本所	5	51	56	36
深川	0	74	74	72
麻布	20	0	20	0
四谷	12	2	14	0
牛込	52	0	52	0
本郷	22	0	22	0
下谷	22	0	22	0
計	254	338	592	213

表3-7より、焼失範囲内には橋が338ヶ所あり、そこから焼失した橋213ヶ所を引くと、焼失範囲内に在りながら焼失していない橋は125ヶ所ある。今回の方法では、問題点として以下の3つ、

- i. 「市設」なのか、または「私設」なのかの判断ができない
- ii. 橋の材料は何かということも分からない
- iii. 区をまたいでいる橋がどちらの区に属するのかに関しては、被害橋梁一覧の区分けを参考にしたが、判断しかねる橋もあった

が挙げられるが、Aに分類した区についてみると、焼失範囲内294ヶ所のうち202ヶ所が焼失、92ヶ所が残存となっており、これは焼失範囲内に在りながら焼失の被害が少ない石橋や鉄筋コンクリート橋といった耐火性のある橋91ヶ所（表3-8の黄色部分）と、ほぼ同じ数であることが分かる。他の区でも焼失範囲内にこのような耐火性の高い橋があり、したがって、焼失範囲内に在りながら焼失していない橋の多くは、石橋や鉄筋コンクリート橋であると考えられる。

表3-8 区別・材料別の橋梁数

区名/材料	石橋	鉄橋	木橋	木鉄混合橋	コンクリート橋	鉄筋コンクリート橋	計
麹町	12	2	6	1	1	1	23
神田	2	6	11	0	0	2	21
日本橋	5	8	28	0	0	2	43
京橋	1	9	50	1	1	1	63
芝	23	2	34	1	0	2	62
赤坂	13	0	7	0	0	1	21
小石川	12	1	34	0	1	5	53
浅草	10	6	13	2	7	8	46
本所	8	5	36	1	1	5	56
深川	0	3	69	1	0	1	74
麻布	7	0	12	0	1	0	20
四谷	9	2	3	0	0	0	14
牛込	31	1	17	0	2	1	52
本郷	6	1	14	1	0	0	22
下谷	9	0	12	0	0	1	22
計	148	46	346	8	14	30	592

（出典 第二十回東京市統計年表）

参考文献

第二十回東京市統計年表 東京市役所 1924

東京震災録 中輯 東京市編 1926

震災豫防調査會報告第百號（戊）関東大地震調査報文火災編 震災豫防調査會 1925

3. 3 火災による被害

橋の火害について、「震災豫防調査會報告 第百號（丁） 関東大地震調査報文建築物以外ノ工作物編」の P49～P53 を引用し、それを現代文に訳し、被害状況をまとめたものを示す。耐火性の分類に関しても文献を参考にした。

3. 3. 1 耐火橋梁

この種の橋梁は主要部に鋼鉄、コンクリート、石材、煉瓦等を用い木材は僅かに路面舗装に使用するかほぼこれを用いない程度のもの。付近家屋の火災、橋下船舶または橋上家財の燃焼等によりその主体に損害を被るものはなかった。新大橋、日本橋、呉服橋、鍛冶橋、京橋、高橋等はこの種類に属し火災区域に在りながらその主体には異常はなかった。表面に御影石を用いているものに関しては船舶または家財の火炎に接触し高温のため石材の表面変質、剥落があった。例えば日本橋においては主体、両側面及び高欄回りに御影石が用いられており、下面は水上船舶の火炎により表面剥落した部分がある。（写真1）高欄及び路面、隅石等は橋上に放置された家財の燃焼により表面特に突角部が著しく剥落した。（写真2）また、鉄材に関して橋上家財の燃焼、橋下焼船の流過等短時間火炎に接触したものにおいては表面に塗装した防腐用ペンキが剥落した程度で鉄材の本質には大きな影響はなかった。これらは何れも橋梁自体の耐力には関係なく震災前と同様の交通に耐え危険を感じさせるものではなかった。ただし、鉄材であっても橋下に繫留された大船の火災により長時間火炎にさらされたものは湾曲変質等が生じ取換を要するものが多かった。

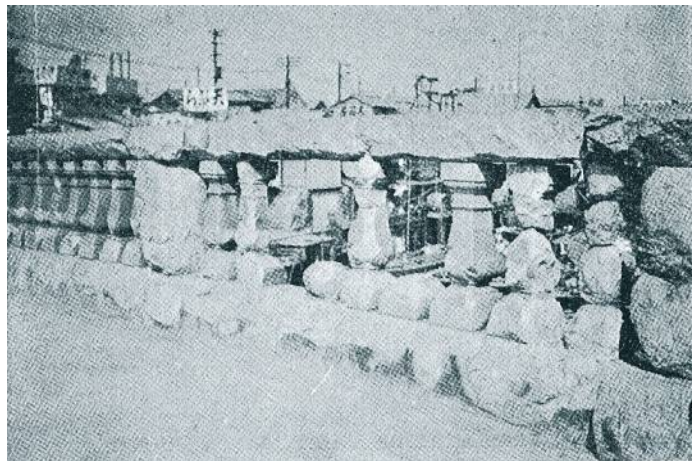
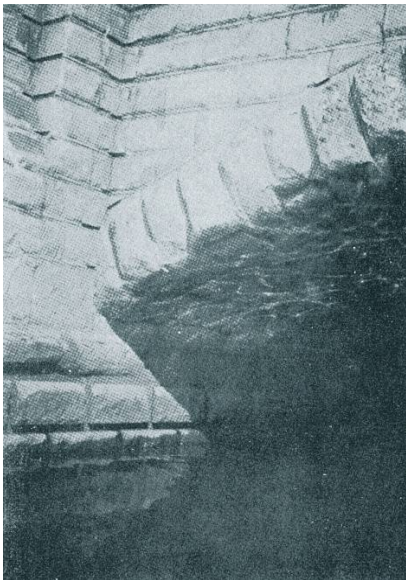


写真1 日本橋起拱部付近の火害状況 写真2 日本橋（高欄、隅石等の表面突角部の剥落）

3. 3. 2 半耐火橋梁

この種の橋梁は不燃質の材料と木材とを混用したものでその混用の程度並びに方法は多種多様でありその耐火性においても著しい差がある。例えば・構または桁には鋼鉄または錬鉄を用い小桁、敷板等に木材を用いたもの・桁も橋床も鉄またはコンクリートなどの不燃材を用いるも橋脚に木杭を用いるもの等。小桁、敷板等全て木材であるがその上にコンクリートアスファルト等で舗装し高欄に鉄材を用いたものは渡橋者に対しては一見耐火構造のように見え、事実橋上家財の燃焼、飛火等により延焼する恐れはなく敷板の露出しているものに比べて耐火性は高いが下面より来る火炎に対しては何の抵抗力もない。震災前は大半がこのような半耐火橋梁であり何れも船舶その他下面より襲来した火炎により焼失したものが多。

・両国橋

橋台はコンクリート造表面煉瓦張り、橋脚は煉瓦井筒に粗コンクリートを充填したもので橋体は鋼製プラット3連よりなり各径間は車道と両側歩道との間に鋼構1條宛を架してこれに直角に多数の床桁を取り付け更にその上に多数の縦桁を置き橋床を支えるもので、車道下においては縦桁は全部鋼鉄でその上にバックル鉄を張りその上にコンクリートを敷き石塊をもって舗装したもので耐火的構造である。しかし両側歩道に関しては工費の関係上木材の縦桁を用い敷板を張りその上にコンクリートを敷き表面にコンクリートのタイルを張ったもので、上面よりこれを見れば車道と同様の耐火構造に見えるが下面は木材の縦桁と敷板が露出しているため上流側の歩道は橋下船舶の火炎より引火し大半が焼け落ちた。(写真3)だが、使用木材が少量だったため床桁及び構桁にはほとんど影響なく強度も震災前と変わらなかった。



写真3 両国橋（上流側歩道が焼け落ちた状況）

・吾妻橋、厩橋、永代橋

両国橋に比べて著しく多量に木材を使用していたためその燃焼により何れも致命的損害を被った。これらの橋においても橋台、橋脚は煉瓦及びコンクリートからなり構桁及び床桁も両国橋同様鉄材（厩橋は錬鉄で他は鋼鉄）で不燃性であるが、縦桁は軌道直下を除くと外車道歩道共に全て木材を用いこれに檜敷板を張り車道においてはその上に木塊を釘着したもので橋床は上面下面共に木材が露出しているため上面は付近家屋からの飛火、橋上の家財の延焼等より、下面は水上の船舶の火災等より引火し何れも橋床は全部焼け落ちた。

（写真4，5）これに接近する鉄材は長時間高熱にさらされたため著しい火害を被り場所によっては甚だしく屈曲し床桁の突縁は波状を呈し中央部が垂れ下がったものが多かった。



写真4 吾妻橋（木製床板が焼け落ち、臨時に角材を張り応急措置を行っている）

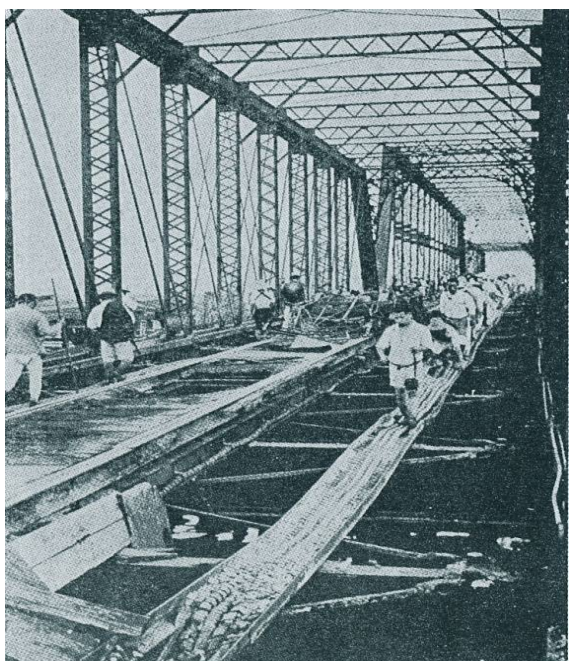


写真5 厩橋

・御茶ノ水橋

主構は鉄製プラット構上路橋で床桁は鉄製、その上に木材の縦小桁を架けこれに直角に厚3寸の敷板を張り車道においては敷板上に厚2寸のコンクリートを敷き路面は相当の耐火性を有していたが、橋床の下面は縦小桁、敷板等露出していたため上流右岸下方にあった木造建築物の火災により下面に引火し橋床の大半が焼失した。(写真6, 7)

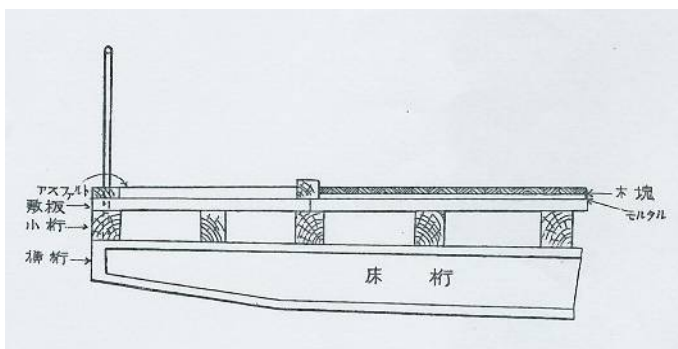


図3-6 (御茶ノ水橋・橋床図)

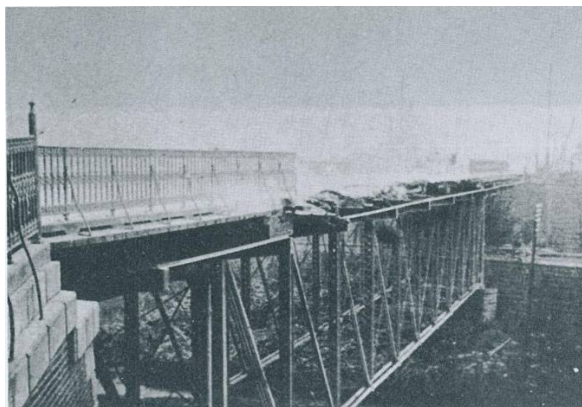


写真6 御茶ノ水橋 (炎上中の御茶ノ水橋)

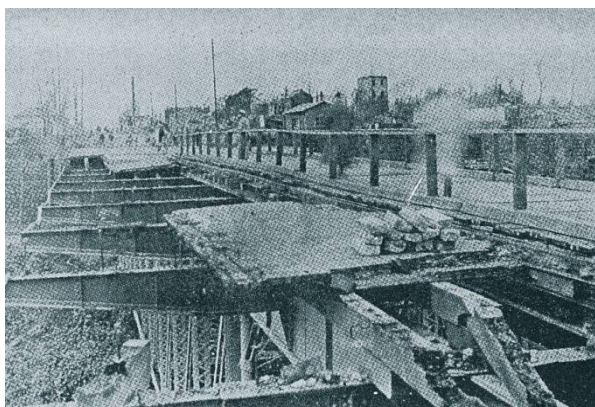


写真7 御茶ノ水橋

・神田橋

橋脚は檜丸太杭を打込んだもので水面付近は防腐のため鉄網コンクリートによって被覆。主桁は檜の丸太及び角材にし、その上に檜の敷板を張りその上面に厚1.5寸位の細コンクリートを敷き車道においてはその上に木塊を張り、歩道においては細コンクリートのタイルを敷いたもの。路面下は柱、桁、敷板共に全部木材が露出しているため橋下船舶の火災により引火し全部焼け落ち電車軌道の片側及び橋柱のコンクリートにより被覆した部分のみ残存した。(写真8, 9)

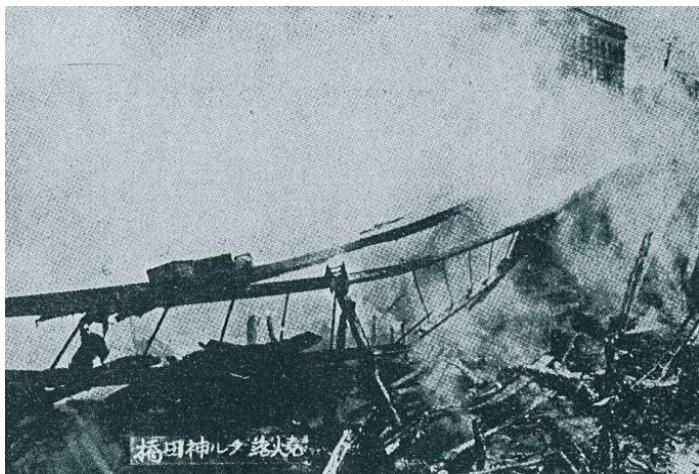


写真8 神田橋 (焼落直後の状況)

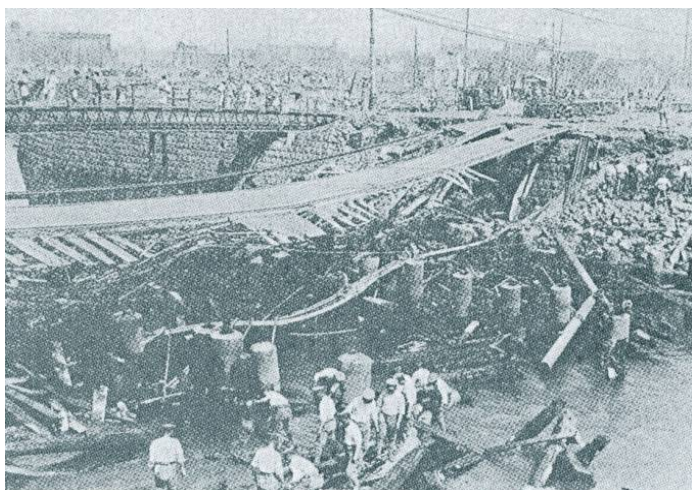


写真9 神田橋 (数日後下流より撮影したもの)

・一ツ橋

橋脚は松杭を打ちコンクリートを敷いたものを基礎としその上に鉄筋コンクリート柱を建て込みその上部を鋼材綾構によって互いに連結させたもの。上体の材料及び構造は神田橋とほぼ同様。橋床下面より引火し焼け落ち、鉄筋柱のみ残った。柱上に帯のように掛っているものは鋼製電話線受。(写真10)

・千代田橋

橋脚樫丸太杭、桁樫角材、敷板檜材でその上に細コンクリートを敷き車道はその上に敷石を、歩道にはコンクリートタイルを張ったもの。矢張り下面より引火し橋脚、橋体全部焼け落ちた。軌道周りの枕木、コンクリート、敷石等は4條の軌條と共に残存し軌條があたかも吊り橋の鉄索のような作用をなした。(写真11)

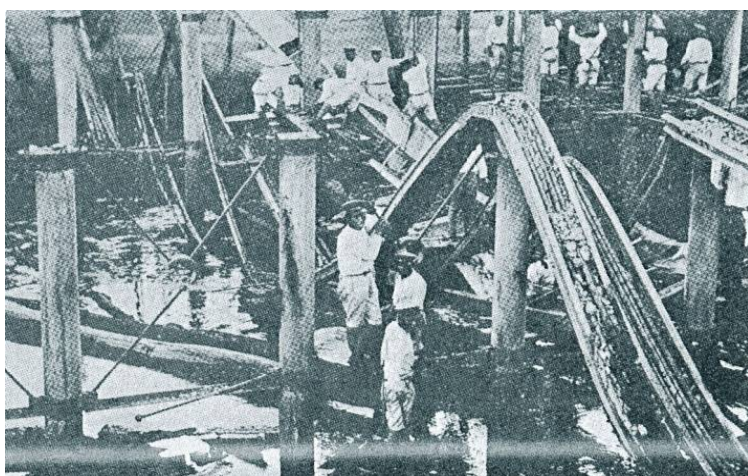


写真10 一ツ橋（鉄筋柱のみ残留した状況）

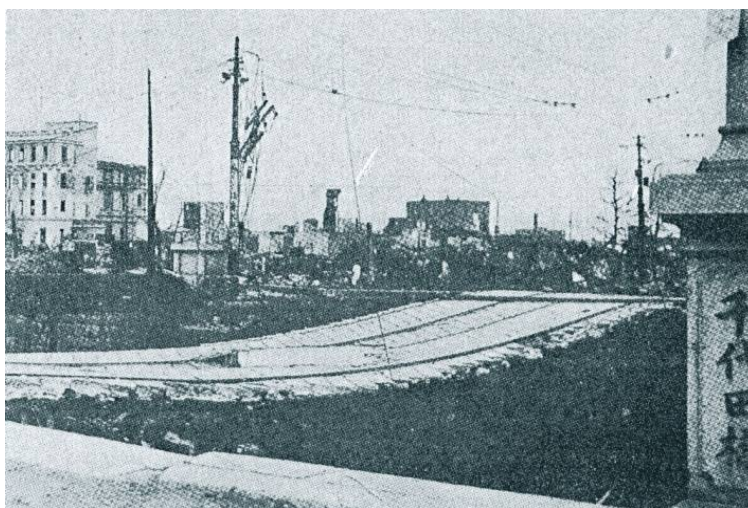


写真11 千代田橋

・相生橋

橋脚は松杭を基礎とし鉄筋コンクリート柱を建並べたもの。主桁は檜材と鋼釦とを混用したハウ式上路構で、径間48尺、桁高4尺を有し床は檜板を張りコンクリートを敷きその上に木塊を張ったものだが、橋脚を残して他は全部焼け落ちた。(写真12)



写真12 相生橋

3. 3. 3 非耐火橋梁

この種の橋梁は橋脚、主桁、橋床共に全部木造にして何れの表面からも容易に引火するもので火災区域内にあったこの種の橋梁はほとんど全部焼失した。

写真13は吾妻橋（右側鉄橋）及びその上流に隣接して架けられている電車橋（中間4條の軌條の見える部分）及び道路仮橋（左端に一部現る）の火災後の状況を示しているもの。両仮橋は何れも米松杭の橋脚上に同材桁を架けたもので内3径間は舟通しのため鋼板を用い、電車橋はその上に枕木を並べ軌條を敷設し道路橋は米松敷板を張ったものであるが、何れも橋脚、主桁、敷板、枕木等を焼失し鉄桁は墜落した。

写真14は永代橋（後方鉄橋）及びこれに隣接する電車仮橋（前方）の火災後の状況を示すものであるが、電車仮橋は吾妻橋上流のものとはほぼ同一構造である。



写真13

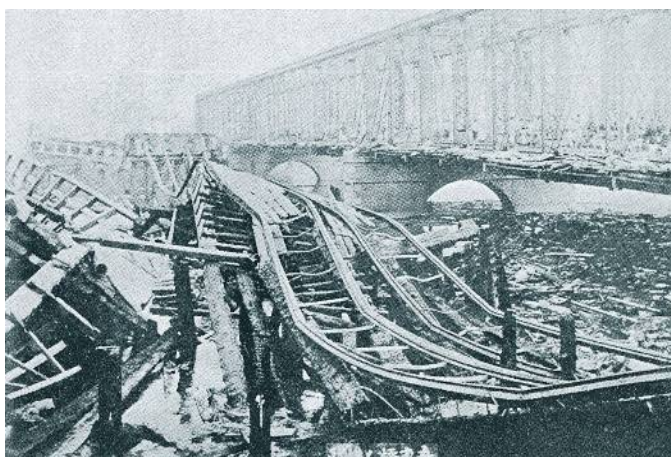


写真14

参考文献

震災豫防調査會報告 第百號（丁） 関東大地震調査報文建築物以外ノ工作物編 震災豫防評議會 1926

日本の橋 社団法人日本橋梁建設協会編 1994

3. 4 人的被害の概要

震災豫防調査會報告 第百號（戊）関東大地震調査報文火災編の P242～P256「震火災ニ因ル死者調」より、各区の焼死者数をまとめた。ここでの死者とは各警察署が検視したもので、その大部分は死者が発生した場所と一致している。しかし例外として、多数の死者が発生した所では、死者を一定の場所に集め検視をしているため、必ずしもその場所での死者とは限らない。なお、これ以降、本所区の被服廠跡空地における死者数（44030 人）は、他と比べて大きいため除外した。

表 3 - 9 各区の焼死者数

区名	性別			合計
	男	女	性不詳	
麴町	14	2	0	16
神田	340	365	96	801
日本橋	108	80	41	229
京橋	141	77	36	254
芝	64	28	23	115
赤坂	3	12	0	15
小石川	2	0	0	2
浅草	219	540	1215	1974
本所	1258	840	857	2955
深川	584	568	470	1586
麻布	0	0	0	0
四谷	0	1	0	1
牛込	0	0	0	0
本郷	22	2	10	34
下谷	86	69	11	166
合計	2841	2584	2759	8148

震災豫防調査會報告 第百號（戊）関東大地震調査報文火災編の P242～P256「震火災ニ因ル死者調」より、100名以上の焼死者が発生した場所を表3-10に示す。

表3-10 100名以上の焼死者が発生した場所

区名	署名	死者ヲ出シタル場所	死因	性別			計
				男	女	性不詳	
本所区	相生署	本所区被服本廠跡空地	焼死	2574	2179	39277	44030
浅草区	日本堤署	田中町小学校敷地内	焼死	40	4	1037	1081
本所区	太平署	太平町1-46先横川橋北詰	焼死	217	126	430	773
本所区	太平署	錦糸町206錦糸町停車場構内	焼死	392	228		620
浅草区	日本堤署	吉原公園内地	焼死	52	435	3	490
深川区	西平野署	東森下町109先道路	焼死	42	42	153	237
深川区	扇橋署	富田町36伊豫橋際	焼死	157	43	9	209
本所区	向島署	本所枕橋際	焼死	51	74	32	157
本所区	相生署	緑町3-1堅川岸石置場	焼死	65	60		125
深川区	扇橋署	東大工町566廣原	焼死	86	27		113
神田区	錦町署	神田驛ガード下	焼死	27	7	74	108
下谷区	坂本署	金杉上町66活動寫真館裏	焼死	68	33		101

本所区被服本廠跡空地を除き、それ以外の死者数を合計すると、4014人である。またこの中での橋際における焼死者数は1139人であり、約3割が橋際で亡くなったことがわかる。

震災豫防調査會報告 第百號（戊）関東大地震調査報文火災編の P242～P256「震火災ニ因ル死者調」に記載されていた橋際での死者をピックアップし、まとめたものを示す。

表 3-1-1 橋際での死者

番号	区名	署名	死者ヲ出シタル場所	死因	性別			計
					男	女	性不詳	
1	本所区	太平署	太平町1-46先横川橋北詰	焼死	217	126	430	773
2 ¹⁽²⁾³	深川区	扇橋署	富川町36伊豫橋際	焼死	157	43	9	209
3 ²	本所区	向島署	本所枕橋際	焼死	51	74	32	157
4 ⁴	深川区	西平野署	東元町高橋際	焼死		2	36	38
5 ³	本所区	相生署	林町伊豫橋際	焼死	18	12		30
6	本所区	太平署	江東橋際	焼死	16	8		24
7	深川区	西平野署	永代橋際	焼死	16	3		19
8	本所区	太平署	柳島町源森橋	焼死	5	8	4	17
9	深川区	西平野署	西平野町海邊橋際	焼死			13	13
10 ⁵	深川区	洲崎署	澤海橋際	焼死	7	4		11
11	日本橋区	堀留署	呉服橋際	焼死	2			2
12	日本橋区	新場橋署	霊岸橋際	焼死	2			2
13	日本橋区	新場橋署	四日市町江戸橋際	焼死	2			2
14	日本橋区	新場橋署	鎧橋際	焼死	2			2
15	小石川区	富坂署	水道橋際	焼死	2			2
16	神田区	西神田署	三崎町新川橋際	焼死	1			1
合計					498	280	524	1302
※	日本橋区	久松署	隅田川岸両国通運会社棧橋際	焼死	6	22		28

注

1) 2の富田町36伊豫橋際→富川町36伊豫橋際

地図で確認したところ、伊豫橋付近に富田町はなく富川町があったため変更した。

2) 2伊豫橋の死者の合計が「震火災ニ因ル死者調」では290と記されていたが、計算すると209の誤りであった。

3) 2の富田町伊豫橋と5の林町伊豫橋

地図で確認したところ、伊豫橋右側の北側が林町、南側が富川町のため、これらは同じ橋である。

4) 4東元町高橋際に関して

大震災焼燬大破橋梁調査には記載がなかったが、延焼動態図において東元町付近に高橋があったため存在は確認できた。

5) 10源海橋→澤海橋

東京震災録や震災豫防調査會報告に記載されている被害橋梁の中に「源海橋」はなく、地図で探しても見当たらなかった。そのため、区や署名を参考にそのエリア内にある「澤海橋」を源海橋とみなすことにした。

※隅田川岸両国通運会社棧橋際について

大震災焼燬大破橋梁調査・延焼動態図ともに記載がなかったため、中央区沿革図集（日本橋編）やインターネットをもとに調べた。それらの資料より棧橋とは両国通運会社が運航する船に乗船するための橋と考えられる。そのため本研究の橋の定義から外れるため、除外した。



図3-7 両国通運会社の絵（絵中央左にある橋が棧橋であると思われる）



図3-8 両国通運会社の位置

図3-9 両国通運会社の位置

参考文献

震災豫防調査會報告第百號（戊）関東大地震調査報文火災編 震災豫防調査會 1925

中央区沿革図集[日本橋] 東京都中央区立京橋図書館 1995

明治大正東京散歩 人文社編集部 2003

両国通運会社の絵 http://www.funenokagakukan.or.jp/sc_02/s/genre/shu/data/D86007.html

3. 5 橋の被害と死者の関係

表3-11に載っている15ヶ所の橋について、その構造材料・焼失破損状況・延焼が橋に到達した時間帯・通行の不可をまとめ一覧にした。これらを参考に死者数の比較をしていく。

表3-12 死者が発生した橋15ヶ所

橋梁名	区名	死者数	材料	状況	時間帯	通行	エリア
横川橋	本所区	773	木造	焼失	昼	不	B
伊豫橋	深川区	239	木造	一部破損	夕	可	C
枕橋	本所区	157	木造	焼失	夕	不	A
高橋	深川区	38	鉄造	(記載なし)	夕	不	C
江東橋	本所区	24	木造	焼失	夕	不	B
永代橋	深川区	19	鉄造	鉄部残在木部焼失	昼, 夜	不	E
源森橋	本所区	17	木造	焼失	昼~夕	不	A
海邊橋	深川区	13	木造	焼失	夜	不	C
澤海橋	深川区	11	鉄造	鉄部残在木部焼失	昼, 夜	不	D
呉服橋	日本橋区	2	鉄造	上部一小部分破損	夜	可	F
靈岸橋	日本橋区	2	鉄造	一部破損	夜	可	F
江戸橋	日本橋区	2	鉄造	一部破損	夜	可	F
鎧橋	日本橋区	2	鉄造	鉄部残在木部焼失	夜	不	F
水道橋	小石川区	2	鉄造	(記載なし)	昼~夕	可	G
新川橋	神田区	1	木造	焼失	夕	不	G

※材料・状況に関しては、作成した被害橋梁一覧より

※高橋・水道橋は作成した被害橋梁一覧には記載されておらず、材料については文献「中央区の橋・橋詰広場」内の橋梁年表より判断

※時間帯は9月1日の、昼：12時～15時、夕：15時～18時、夜：18時～とする

※通行の不可に関しては、延焼動態図上に、焼失または破損のため交通不能となった橋が濃赤色で示されており、それを参考にした

3. 5. 1 区別による比較

表3-1-1より、橋際で死者が発生した場所16ヶ所（伊豫橋が2つの区に分かれているため）を基に死者数を区別に分類した。結果は以下の通りである。

表3-1-3 区別の焼死者数

区名	本所区	深川区	日本橋区	小石川区	神田区	他の区				
全死者数	2955	1586	229	2	801	2575				
橋梁数	5	5	4	1	1	0				
死者数	横川橋	773	伊豫橋	209	呉服橋	2	水道橋	2	新川橋	1
	伊豫橋	30	高橋	38	靈岸橋	2				
	枕橋	157	永代橋	19	江戸橋	2				
	江東橋	24	海邊橋	13	鎧橋	2				
	源森橋	17	澤海橋	11						
死者数計	1001	290	8	2	1	0				

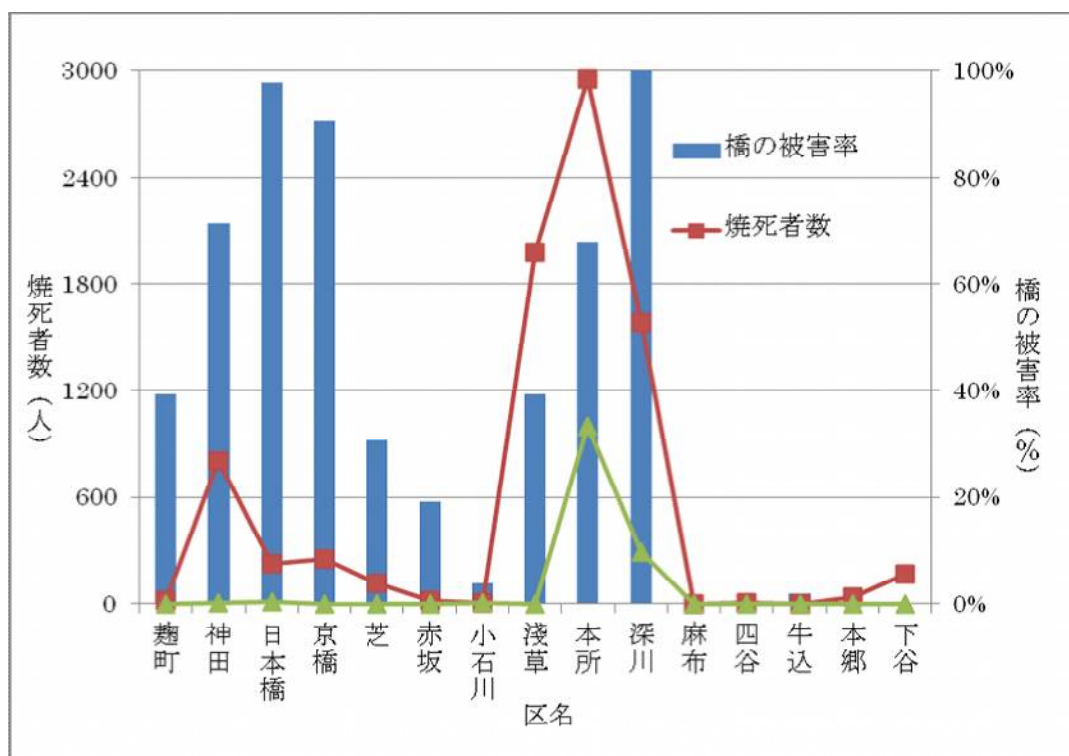


図3-1-0 区別の焼死者数と橋の被害率

図3-1-0は区別の全焼死者数、橋際での焼死者数と橋の被害率の関係を表したものである。本所区は、全ての項目において高い数値であった。深川区は、被害率が最も高く焼死者数も2番目に多いが、被害率の割には橋際での焼死者は少なかった。神田区は、焼死者数は3番目に多く、橋の被害率も7割だが、焼死者数は1名であった。日本橋・京橋区は、橋の被害率が高いが、焼死者数は少なく、橋際での焼死者数も日本橋区は8名、京橋区は0名であった。浅草区は焼死者数が2番目に多いが、橋際では0名であった。

3. 5. 2 橋の材料による比較

表3-12より、15ヶ所の橋について材料別に死者数を分類した。結果は以下の通りである。

表3-14 材料別の死者数

材料	木橋		鉄橋	
橋梁数	7		8	
死者数	横川橋	773	高橋	38
	伊豫橋	239	永代橋	19
	枕橋	157	澤海橋	11
	江東橋	24	呉服橋	2
	源森橋	17	靈岸橋	2
	海邊橋	13	江戸橋	2
	新川橋	1	鎧橋	2
			水道橋	2
死者数計	1224		78	

表3-14より、明らかに木橋における死者数が多いことが分かる。東京市の橋梁数における木橋の割合が6割であり、焼失数も圧倒的に多いためであると考えられる。

3. 5. 3 延焼の時間帯による比較

表3-12より、15ヶ所の橋について、橋に延焼が到達した時間帯別に死者数を分類した。結果は以下の通りである。

表3-15 時間帯別の死者数

時間帯	昼		夕		夜	
橋梁数	5		5		5	
死者数	横川橋	773	伊豫橋	239	海邊橋	13
	永代橋	19	枕橋	157	呉服橋	2
	源森橋	17	高橋	38	靈岸橋	2
	澤海橋	11	江東橋	24	江戸橋	2
	水道橋	2	新川橋	1	鎧橋	2
死者数計	822		459		21	

※「昼～夕」「昼、夜」に関しては、最初に橋に延焼が到達した前者の時間帯に入れる

表3-15より、昼から夕方にかけての死者数が多いことが分かる。橋での焼死者の大半は本所区・深川区であり、この地域は19時頃の時点でほぼ全域が焼失範囲内にあるため、このような分布になったと考えられる。

3. 5. 4 通行の不可による比較

表3-12より、15ヶ所の橋について、通行の不可により死者数を分類した。結果は以下の通りである。

表3-16 通行の不可による死者数

通行の不可	不能		可能	
橋梁数	10		5	
死者数計	横川橋	773	伊豫橋	239
	枕橋	157	呉服橋	2
	高橋	38	靈岸橋	2
	江東橋	24	江戸橋	2
	永代橋	19	水道橋	2
	源森橋	17		
	海邊橋	13		
	澤海橋	11		
	鎧橋	2		
	新川橋	1		
死者数計	1055		247	

表3-16より、通行不能の方が、件数・死者数共に多いことが分かる。一方で、通行可能にも関わらず239名の死者が発生している場所（伊豫橋）があり、橋の被害は少なくとも死者が多く発生する場合があるとも考えられる。

橋際での焼死者の大半が本所区・深川区であり、これらの区は地震発生直後から夜までに区のほとんどが焼失した場所である。そのため以上の比較でも、時間帯や通行の不可でその影響が見られた。

3. 5. 5 出火点および飛火点密度による比較

ここでは、15ヶ所の橋について、各区の出火点・飛火点密度と橋周辺での出火点・飛火点密度の大小を比較し、死者数を分類した。まずは、各区の出火点・飛火点密度について示す。

表3-17 各区の出火点および飛火点密度

区名	全面積(km ²)	出火点	単位面積(km ²)当たりの出火点密度	飛火点	単位面積(km ²)当たりの飛火点密度
麴町	8.16	7	0.86	26	3.19
神田	3.07	10	3.25	22	7.16
日本橋	2.96	2	0.67	21	7.08
京橋	4.55	3	0.66	37	8.14
芝	9.39	2	0.21	16	1.70
麻布	3.97	0	0.00	0	0.00
赤坂	4.23	3	0.71	3	0.71
四谷	2.77	1	0.36	0	0.00
牛込	5.21	1	0.19	0	0.00
小石川	6.49	2	0.31	12	1.85
本郷	4.83	2	0.41	13	2.69
下谷	5.05	3	0.59	8	1.59
浅草	4.81	19	3.95	21	4.37
本所	6.08	13	2.14	30	4.94
深川	7.93	8	1.01	25	3.15
計	79.50	76	0.96	234	2.94

表3-18 2つの区の出火点および飛火点密度

区名		単位面積(km ²)当たりの出火点密度	単位面積(km ²)当たりの飛火点密度
深川	本所	1.50	3.93
深川	京橋	0.88	4.97
日本橋	麴町	0.81	4.23
日本橋	京橋	0.67	7.72
神田	小石川	1.25	3.55
神田	麴町	1.51	4.27

表3-17は、「震災豫防調査會報告 第百號(戊)第二篇 起災火元」P90~P91より、延焼動態図上に示されている出火点の数を調べ、各区の全面積を基に単位面積(km²)当たりの出火点を算出したものである。飛火点に関しては、上記の文献に飛火点の一覧が記載されておらず、延焼動態図上に示されている飛火点を数え、飛火点密度の算出に使用した。また、表3-18は2つの区にまたがる橋を比較するため、2つの区の面積と出火点を加え、単位面積(km²)当たりの出火点を算出したものである。飛火点についても同様。

次に、橋周辺の出火点および飛火点密度について示す。

表 3 - 1 9 橋別の出火点および飛火点密度

番号	橋梁名	区名		焼死者数	火炎到達時刻	円内の出火点	単位面積(km ²)当たりの出火点密度	円内の飛火点	単位面積(km ²)当たりの飛火点密度
1	横川橋	本所		773	14時	2	2.55	4	5.10
2	伊豫橋	深川	本所	239	16時	2	2.55	4	5.10
3	枕橋	本所		157	15時	0	0.00	2	2.55
4	高橋	深川		38	17時	1	1.27	1	1.27
5	江東橋	本所		24	15時	4	5.10	6	7.64
6	永代橋	深川	京橋	19	13時	2	2.55	6	7.64
7	源森橋	本所		17	14時	1	1.27	6	7.64
8	海邊橋	深川		13	19時	0	0.00	2	2.55
9	澤海橋	深川		11	13時	4	5.10	2	2.55
10	呉服橋	日本橋	麴町	2	19時	0	0.00	13	16.56
11	靈岸橋	日本橋	京橋	2	18時	2	2.55	7	8.92
12	江戸橋	日本橋		2	20時	1	1.27	3	3.82
13	鎧橋	日本橋		2	20時	0	0.00	3	3.82
14	水道橋	小石川	神田	2	15時	2	2.55	13	16.56
15	新川橋	神田	麴町	1	15時	4	5.10	9	11.46

表 3 - 1 9 は、延焼動態図上で、死者が発生した橋を中心に半径 500m の円を描き、その円内の出火点を数え、円の面積 (0.785km²) を基に単位面積(km²) 当たりの出火点を算出したものである。飛火点についても同様。

火炎の到達時刻と出火点および飛火点の関係をみると、出火点については、円内の出火点が 4 ヶ所の橋が 13 時～15 時に集まっており、地震発生直後に多いことが分かった。一方で、夜になると、円内の出火点が 0 ヶ所の橋が増え、出火点は少ない傾向にある。飛火点については、時間による傾向はあまりみられず、風などの気象条件が影響していると考えられる。

各区の出火点および飛火点密度と橋周辺での出火点および飛火点密度の大きさを比較し、死者数を分類した結果は以下の通りである。

表 3-20 出火点密度の大小による死者数

単位面積(km ²)当りの出火点密度	大きい		小さい	
橋梁数	10		5	
死者数	横川橋	773	枕橋	157
	伊豫橋	239	源森橋	17
	高橋	38	海邊橋	13
	江東橋	24	呉服橋	2
	永代橋	19	鎧橋	2
	澤海橋	11		
	靈岸橋	2		
	江戸橋	2		
	水道橋	2		
	新川橋	1		
死者数計	1111		191	

表 3-21 飛火点密度の大小による死者数

単位面積(km ²)当りの飛火点密度	大きい		小さい	
橋梁数	9		6	
死者数	横川橋	773	枕橋	157
	伊豫橋	239	高橋	38
	江東橋	24	海邊橋	13
	永代橋	19	澤海橋	11
	源森橋	17	江戸橋	2
	呉服橋	2	鎧橋	2
	靈岸橋	2		
	水道橋	2		
	新川橋	1		
	死者数計	1079		223

表 3-17, 18, 19の結果より、橋での出火点密度がその区の出火点密度より大きいか小さいかで、死者の分類をしたものが表 3-20、同様に飛火点密度で死者を分類したものが表 3-21である。

表 3-20より、橋での出火点密度が大きい場所の方が、死者数が圧倒的に多いことが分かる。周辺に出火点が多い場所ほど死者が発生しやすいと言える。また出火点密度が小さい場所に関して、そのうちの4つは円内に出火点がないが、それは速度の速い延焼によって死者が発生したと考えられる。枕橋・海邊橋・鎧橋においては、表 3-21より、飛火点密度についても区の出火点密度より小さく、火炎の延焼速度や風の影響が大きい場所だったと考えられる。

そのため、出火点密度が小さいからと言って安全であるとは言い切れず、気象条件なども考慮する必要がある。

3. 5. 6 延焼方向と橋の位置による比較

橋における死者の発生パターンを以下の方法で分類した。

A橋の両側に火炎が迫った

- a. 川と平行
- b. 川と直角
- c. 両方

B橋の片側に火炎が迫った

- a. 川と平行
- b. 川と直角
- c. 両方

結果は以下の通りである。(A－b, B－a, B－cは該当するものがなかった)

表3－22 延焼方向と橋の位置による焼死者数

火炎が迫っている方向 火炎が川に対して	両側		片側			
	平行	平行&直角	直角			
橋梁数	5		5			
死者数	横川橋	773	枕橋	157	高橋	38
	伊豫橋	239	江東橋	24	永代橋	19
	澤海橋	11	源森橋	17	呉服橋	2
	鎧橋	2	海邊橋	13	江戸橋	2
	新川橋	1	靈岸橋	2	水道橋	2
死者数計	1026		213		63	

表3－22より、橋に対して、両側から火炎が迫ったパターンの方が、死者数は多い事が分かった。中でも、火炎が川に対して平行（火炎が橋の両側を通り抜ける）の方が、死者数は多い。火炎が橋の片側からのみの場合は、避難できる可能性が高いため、死者数は少なかったと考えられる。

3. 5. 7 死者発生エリアによる分類

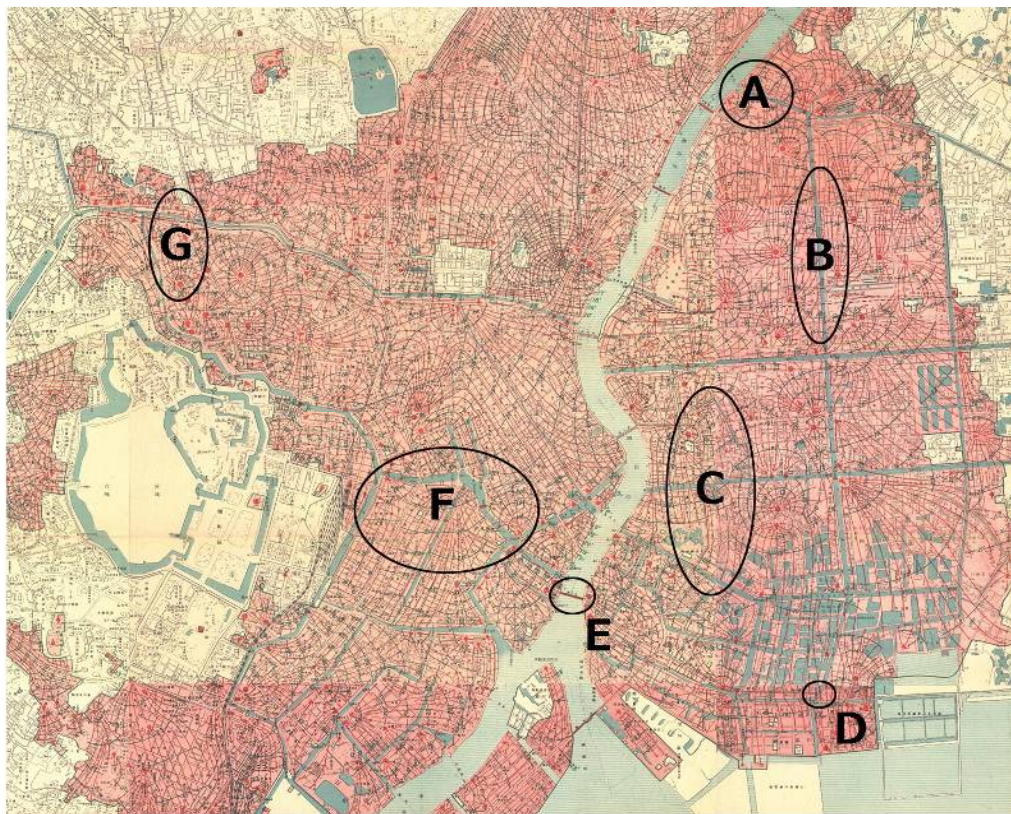


図3-11 死者が発生した橋の集まるエリア分布

この図は、死者が発生した15ヶ所の橋について、位置が近いものを一つのエリアとしてまとめたもの、またはその橋の位置を記したものである。各エリアの死者発生の特徴は以下の通りである。

A エリアには枕橋と源森橋が含まれている。このエリアは、西側に隅田川があるため逃げ道がなく、そこに東、南側から火炎が迫り死者が発生した。いずれの橋も焼失し通行不能となっている。

B エリアには横川橋と江東橋が含まれている。このエリアは、橋の四周に出火点があり、全方位炎に囲まれ死者が発生した。もっとも死者が多いエリアである。

C エリアには伊豫橋、高橋と海邊橋が含まれている。このエリアは、西側に隅田川、東側には出火点があり、その状況の中で、南北から火災延焼が迫り死者が発生した。

D は澤海橋である。個別の状況については3. 5. 8で説明する。

E は永代橋である。個別の状況については3. 5. 8で説明する。

F エリアには呉服橋、霊岸橋、江戸橋と鎧橋が含まれている。このエリアは、火災延焼が橋に到達した時間が夜で、死者数は少ない。鎧橋以外は通行可能であり、逃げ遅れた人が焼死したと予想される。

G エリアには水道橋と新川橋が含まれている。このエリアは、地震発生直後に火災が発生し出火および飛火点が多いが、死者数は1～2人と少ない。

3. 5. 8 個別の死者発生パターン例

この項では、15ヶ所の橋について、それぞれの死者発生状況を分析していく。

※図の説明

- ・ 図は延焼動態図を切り取ったものである
- ・ 中心の黒い太い円は橋の位置を示す
- ・ 外側の黒い細い円は半径500mの円で、出火密度を算出するのに用いた
- ・ 黄色の矢印は延焼速度を算出するためのもで、算出方法は以下のとおりである
 - (i) 橋に到達した火炎、及び橋の近くを通過している火炎を選択
 - (ii) それらの火炎から、時間を特定できるポイントを2点選び、線で結ぶ
 - (iii) 距離を測り、速度を算出する

参考文献

震災豫防調査會報告第百號（戊）関東大地震調査報文火災編 震災豫防調査會 1925

1923 関東大震災報告書【第1編】中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会 平成18年7月

大震火災時の焼失範囲の推計に関する調査研究 その2 東京都防災会議

第四章 まとめ

4. 1 まとめと今後の課題

15カ所の橋の被害と死者の関係をみると、以下の傾向があることがわかった。

- ・橋の火災被害は木橋が多く、橋際での死者数も木橋が圧倒的に多い
- ・地震発生直後から夕方までの火災被害の大きい時間帯での死者が多い
- ・焼失し通行不可の橋での死者が多い

また、個別にみると、

- ・隣の橋では死者が発生していない所がある
- ・木橋で死者が多く発生しているにも関わらず、焼失せず通行可能な橋もあった
- ・夜で橋の被害は少ないのに、気象条件や逃げ遅れで死者が発生している

等、立地や火災状況の影響が大きく、橋の被害が直接、死者発生と結びついているとは言い切れないこともわかった。

現代では木橋はほとんどなく、材料の観点から見れば、仮に都市大火が発生しても橋での焼死者は少ないと考えられる。ただし、気象条件により風の影響で隅田川を超える飛火が発生し、延焼速度も速くなる。そのため耐火性のある橋でも橋の周囲や両側が火炎に囲まれ、避難できなくなる可能性もあると言える。今後の課題としては、避難時の人間の心理や住宅地・商業地等の違いによる橋への人の密集度を調べることで、橋と避難の関係を検証すること、などが考えられる。

4. 2 謝辞

本研究を進めるにあたり、辻本誠教授、西田幸夫先生には大変お世話になりました。

辻本教授には、いつも鋭い指摘をして頂き、回答に困惑することが多々ありましたが、そこには多くのヒントがあり、研究の幅を広げることができたと思っております。

そして西田先生には、多くのアドバイスや細かい添削をして頂きました。どのように作業を進めれば良いのかわからない私達に、やさしく手を差し伸べてくださり、心から感謝しています。

最後になりますが、この研究に携わってくださった辻本研究室の先輩方、仲間たち、そして全ての人に、厚く御礼申し上げます。

付録

- ・被害橋梁一覧

東京震災録 中輯 P331～P340 の、

「大正十二年九月一日震火災焼失橋梁調」

「大正拾貳年九月一日震火災ノ爲被害ヲ受ケタル橋梁調」

「大正拾貳年九月一日震火災（私設橋）焼失調」

を以下のルールに則り表にまとめた。

- ・住所の漢数字は算用数字に書き直した。
- ・「同」と書いてあるものは直前のものに書き直した。
- ・区及び町名が記載されていないものは、町名、前後関係から推測した。
- ・住所のフォーマットが所々異なっているため、住所のみに統一した。「～（ヨリ）～（ニ架ス）」

※修正点

- ・「大正十二年九月一日震火災焼失橋梁調」の No.106,184,185 に関して
いずれも木造と記されていたが、被害状況の説明の部分で、「鐵部殘在木部焼失」と記されていたため、木鐵を混合していたと判断し、鐵造と書き換えた。
- ・「大正十二年九月一日震火災焼失橋梁調」の No. 138 に関して、
二個目の住所が、「本所区押上町向島押上町」と記されていたため、誤字と判断し、「本所区向島押上町」に書き換えた。（向島押上町は実在した。）

震災豫防調査會報告 第百號（戊）関東大地震調査報文火災編 P52～P60 の、「大震火災焼燬大破橋梁調査」

を以下のルールに則り表にまとめた。

- ・住所の漢数字は算用数字に書き直した。
- ・「同」と書いてあるものは直前のものに書き直した。
- ・区及び町名が記載されていないものは、町名、前後関係から推測した。
- ・住所のフォーマットが所々異なっているため、住所のみに統一した。

※修正点

No199 に関して

範田橋	深川区茂森町 1	深川区木場町 18	木造	焼燬
範田橋	深川区茂森町 1	深川区木場町 19	木造	焼燬墜落

No236 に関して

猿江橋	深川区西町 1	深川区猿江町 2	木骨石造	焼燬墜落
猿江橋	深川区猿江町 2	深川区西町 1	木造	焼燬墜落

No237 に関して

扇橋	深川区扇橋町 1-2	深川区東扇橋町 6	木造	焼燬墜落
扇橋	深川区東扇橋町 6	深川区扇町 2	木造	焼燬墜落

No253 に関して

大榮橋	深川区久永町 15	深川区石島町 15	木造	焼燬墜落
大榮橋	深川区石島町 14	深川区久永町 15	木造	焼燬墜落

について、同じ橋を指すものであると思われるので、先に出てきたほうを優先して記載する。

No83,84 に関して、

No83	濱前橋	京橋区西河岸通り 11-8	同区日出町 3 號地
------	-----	---------------	------------

No84	新月島橋	京橋区月島通り 11-7	同区日出町 3 號地
------	------	--------------	------------

を

No83	濱前橋	京橋区西河岸通り 11-8	京橋区月島通り 12 丁目 3 號地
------	-----	---------------	--------------------

No84	新島橋	京橋区月島通り 11-7	京橋区月島通り 12 丁目 3 號地
------	-----	--------------	--------------------

に書き換えた。中央区沿革図集[月島篇]に記載されている地図で確認したところ、新月島橋は存在せず、新島橋の間違いと思われたため。また住所の後半も間違いと思われたため。

大正十二年九月一日震火災焼失橋梁調

番号	名称	区	所在	構造別	破損別
1	神田橋	麴町	麴町区大手町 神田区美土代町	木造	焼失
2	一ツ橋	麴町	麴町区元衛町竹平町ノ境 神田区一ツ橋通り	木造	焼失
3	御茶ノ水橋	神田	神田区駿河臺西紅海町 本郷区湯島3丁目	鐵造	鐵部殘存木部焼失
4	畑橋	神田	神田区今川小路1丁目 麴町区飯田町1丁目	木造	焼失
5	新三崎橋	神田	神田区三崎町3丁目 麴町区飯田町4丁目	木造	焼失
6	新飯田橋	神田	神田区三崎町3丁目 麴町区飯田町4丁目31番	木造	焼失
7	新川橋	神田	神田区西小川町2丁目 麴町区飯田町4丁目23番	木造	焼失
8	橋本橋	神田	神田区材木町 神田区橋本町1丁目	木造	焼失
9	三崎橋	神田	神田区三崎町3丁目 麴町区飯田町4丁目31番	木造	焼失
10	岩井橋	神田	神田区元岩井町 神田区豊島町	木造	焼失
11	和泉橋	神田	神田区佐久間町 神田区岩本町	鐵造	鐵部殘存部電車軌道巾殘他焼失
12	西河岸橋	日本橋	日本橋区西河岸町 日本橋区北鞆町	鐵造	鐵部殘在木部焼失
13	中之橋	日本橋	日本橋区伊勢町 日本橋区小船町	木造	焼失
14	榮橋	日本橋	日本橋区久松町 日本橋区富澤町	木造	焼失
15	千鳥橋	日本橋	日本橋区橋町1丁目 日本橋区元濱町	木造	焼失
16	高砂橋	日本橋	日本橋区高砂町 日本橋区久松町	木造	焼失
17	汐見橋	日本橋	日本橋区橋町1丁目 日本橋区元濱町	木造	焼失
18	新場橋	日本橋	日本橋区材木町2丁目 日本橋区坂本町	木造	焼失
19	兜橋	日本橋	日本橋区兜町 日本橋区本材木町1丁目	木造	焼失
20	永久橋	日本橋	日本橋区箱崎町1丁目 日本橋区蠣殻町一丁目	木造	焼失
21	男橋	日本橋	日本橋区濱町3丁目 日本橋区中洲町	木造	焼失
22	小川橋	日本橋	日本橋区箱崎浪花町 日本橋区久松町	木造	焼失
23	箱崎橋	日本橋	日本橋区箱崎町1丁目 日本橋区小網町3丁目	木造	焼失
24	女橋	日本橋	日本橋区濱町3丁目 日本橋区中洲町	木造	焼失
25	親父橋	日本橋	日本橋区新葎町 日本橋区堀江町	木造	焼失
26	萬橋	日本橋	日本橋区新材木町 日本橋区堀江町	木造	焼失
27	思案橋	日本橋	日本橋区小網町1丁目 日本橋区小網町2丁目	木造	焼失
28	東仲橋	日本橋	日本橋区本銀町3丁目 神田区東今川町	木造	焼失
29	白旗橋	日本橋	日本橋区本銀町1丁目 神田区西今川町	木造	焼失
30	地藏橋	日本橋	日本橋区本銀町4丁目 神田区東今川町	木造	焼失
31	西仲之橋	日本橋	日本橋区本銀町1丁目 神田区西今川町	木造	焼失
32	火除橋	日本橋	日本橋区大傳馬鹽町 神田区東今川町	木造	焼失
33	鐘橋	日本橋	日本橋区南茅場町 日本橋区小網町2丁目	鐵造	鐵部殘在木部焼失
34	中之橋	日本橋	日本橋区蠣殻町3丁目 日本橋区濱町3丁目	木造	焼失
35	甚兵衛橋	日本橋	日本橋区小傳馬上町 神田区東今川町	木造	焼失
36	玉出橋	日本橋	日本橋区龜井町 神田区材木町	木造	焼失
37	豊海橋	日本橋	日本橋区北新堀町 京橋区南新堀町2丁目	鐵造	鐵部殘在木部焼失
38	久松橋	日本橋	日本橋区久松町38番地先	木造	焼失
39	千代田橋	日本橋	日本橋区本材木町河岸 日本橋区槻河岸	木造	焼失
40	竹森橋	日本橋	日本橋区龜井町 神田区橋本町	木造	焼失

番号	名称	区	所在	構造別	破損別
41	蟻濱橋	日本橋	日本橋区蟻殻町3丁目 日本橋区濱町2丁目	木造	焼失
42	炭谷橋	日本橋	京橋区炭谷町 京橋区水谷町	木造	焼失
43	白魚橋	京橋	京橋区材木町3丁目 京橋区金六町	木造	焼失
44	湊橋	京橋	京橋区南新堀町1丁目 日本橋区箱崎町	鐵造	鐵部殘在木部焼失
45	一ノ橋	京橋	京橋区靈岸島町 京橋区富島町	木造	焼失
46	新川橋	京橋	京橋区靈岸島四日市町 京橋区靈岸島銀町	木造	焼失
47	三ノ橋	京橋	京橋区靈岸島銀町 京橋区大川端銀町	木造	焼失
48	龜島橋	京橋	京橋区川口町 日本橋区龜島町1丁目	木造	焼失
49	新龜島橋	京橋	京橋区川口町 日本橋区龜島町2丁目	木造	焼失
50	元高橋	京橋	京橋区本湊町1丁目 京橋区本八丁堀町5丁目	鐵造	鐵部殘在木部焼失
51	稲荷橋	京橋	京橋区本八丁堀5丁目 京橋区南八丁堀3丁目	木造	焼失
52	中之橋	京橋	京橋区本八丁堀3丁目 京橋区南八丁堀2丁目	木造	焼失
53	采女橋	京橋	京橋区采女町 京橋区築地3丁目	木造	焼失
54	祝橋	京橋	京橋区木挽町3丁目 京橋区築地2丁目	木造	焼失
55	合引橋	京橋	京橋区築地1丁目 京橋区新富町3丁目	木造	焼失
56	築地橋	京橋	京橋区築地1丁目 京橋区新富町6丁目	木造	焼失 改良中假橋
57	小田原橋	京橋	京橋区築地3丁目 京橋区南小田原町1丁目	木造	焼失
58	堺橋	京橋	京橋区入舟町8丁目 京橋区南小田原町4丁目	木造	焼失
59	明石橋	京橋	京橋区南飯田町 京橋区明石町	木造	焼失
60	龜井橋	京橋	京橋区木挽町2丁目 京橋区築地1丁目	木造	焼失
61	木挽橋	京橋	京橋区三十間堀3丁目 京橋区木挽町5丁目	木造	焼失
62	豊國橋	京橋	京橋区銀座2丁目 京橋区木挽町	木造	焼失
63	紀伊國橋	京橋	京橋区銀座2丁目 京橋区木挽町1丁目	木造	焼失
64	松幡橋	京橋	京橋区本材木町 京橋区高代町	木造	焼失
65	久安橋	京橋	京橋区中橋和泉町 京橋区松屋町	木造	焼失
66	新富橋	京橋	京橋区新富町4丁目 京橋区入船町3丁目	木造	焼失
67	船見橋	京橋	京橋区新富町4丁目 京橋区入船町3丁目	木造	焼失
68	南新富橋	京橋	京橋区新富町7丁目 京橋区入船町6丁目	木造	焼失
69	北船見橋	京橋	京橋区南八丁堀1丁目 京橋区南八丁堀2丁目	木造	焼失
70	小橋	京橋	京橋区本湊町 京橋区船松町	木造	焼失 震災後廢橋トナル
71	鐵砲洲橋	京橋	京橋区船松町 京橋区本湊町	木造	焼失 震災後廢橋トナル
72	浦堀橋	京橋	京橋区明石町18番地先 京橋区明石町28番地	木造	焼失 震災後廢橋トナル
73	新榮橋	京橋	京橋区新榮町7丁目 京橋区南小田原町3丁目	木造	焼失
74	見富橋	京橋	京橋区新湊町5丁目 京橋区船松町	木造	焼失 震災後廢橋トナル
75	水谷橋	京橋	京橋区銀座1丁目 京橋区水谷町	木造	焼失
76	榮橋	京橋	京橋区越前堀2丁目 京橋区新船松町	木造	焼失
77	佃橋	京橋	京橋区佃島 京橋区月島	木造	焼失
78	元彈正橋	京橋	京橋区東湊町1丁目 京橋区本八丁堀5丁目	鐵造	鐵部及木部中央ノ一部殘在 他ハ焼失
79	明大橋	京橋	京橋区木挽町9丁目2930地先	木造	焼失
80	回漕橋	京橋	京橋区越前堀2丁目 京橋区靈岸島銀町	木造	焼失

番号	名称	区	所在	構造別	破損別
81	汐先橋	京橋	京橋区木挽町8丁目 芝区芝口汐留町2丁目	木造	焼失
82	濱前橋	京橋	京橋区月島西河岸通り11丁目第一號埋立地	木造	焼失
83	新島橋	京橋	京橋区西河岸通り11丁目第一號埋立地	木造	焼失
84	彈正橋	京橋	京橋区本材木町3丁目 京橋区高代町	鐵造	中央電車軌道残在他ハ焼失
85	新湊橋	京橋	京橋区明石町22番 京橋区明石町23番	木造	焼失 震災後廢橋トナル
86	會仙橋	芝	芝区汐留町1丁目2丁目 芝区汐留川二流落スル入堀口	木造	焼失
87	新錢座橋	芝	芝区新錢座	木造	焼失
88	芝濱橋	芝	芝区新錢座5番地	木造	焼失
89	生洲橋	芝	芝区南濱町	木造	焼失
90	新濱橋	芝	芝区南濱町 芝区日之出町	木造	焼失
91	桐畑橋	赤坂	赤坂区田町5丁目 赤坂区田町6丁目	木造	焼失
92	土橋	赤坂	赤坂区田町5丁目18番地 赤坂区田町6丁目18番地	木造	焼失
93	土橋	赤坂	赤坂区田町2丁目 赤坂区田町3丁目	木造	焼失
94	小石川橋	小石川	小石川区小石川町 麹町区飯田町5丁目	木造	焼失
95	老松橋	淺草	淺草区老松町 淺草区新旅籠町	木造	焼失
96	三筋橋	淺草	淺草区東三筋町 淺草区榮久町	木造	焼失
97	富坂橋	淺草	淺草区東三筋町 淺草区富坂町	木造	焼失
98	今戸橋	淺草	淺草区今戸町 淺草区金龍山下瓦町	木造	焼失
99	地方小橋	淺草	淺草区地方今戸町26 淺草区地方今戸町61番地	木造	焼失
100	紙洗橋	淺草	淺草区吉野町 淺草区日本堤町	鐵造	鐵部残在木部焼失
101	正法寺橋	淺草	淺草区吉野町 淺草区地方今戸町	鐵造	鐵部残在木部焼失
102	玉姫橋	淺草	淺草区玉姫町81番地	木造	焼失
103	地方橋	淺草	淺草区地方今戸町84番地先	木造	焼失
104	内沼橋	淺草	淺草区玉姫町玉姫神社裏 淺草区淺草町100番地先	木造	焼失
105	雲母橋	淺草	淺草区地方今戸町1 淺草区日本堤	木造	焼失
106	厩橋	本所	本所区外手町 淺草区黒船町	鐵造	鐵部残在木部焼失
107	枕橋	本所	本所区中ノ郷瓦町 本所区新小梅町	木造	焼失
108	源森橋	本所	本所区中ノ郷瓦町 本所区新小梅町	木造	焼失
109	新辻橋	本所	本所区柳原町1丁目 本所区柳原町3丁目	木造	焼失
110	堅川橋	本所	本所区林町2丁目 本所区線町2丁目	木造	焼失
111	一之橋	本所	本所区相生町1丁目 本所区千歳町	木造	焼失
112	三之橋	本所	本所区線町5丁目 本所区徳右衛門町	鐵造	木部ハ少部分焼失他ハ残在
113	四ノ橋	本所	本所区茅場町3丁目 深川区本村町	木造	焼失
114	北辻橋	本所	本所区花町 本所区柳原町1丁目	木造	焼失
115	南辻橋	本所	本所区花町 本所区柳原町1丁目	木造	焼失
116	長崎橋	本所	本所区長崎町 本所区錦糸堀町	木造	焼失
117	業平橋	本所	本所区小梅業平町 本所区中ノ郷業平町	木造	焼失
118	江東橋	本所	本所区入江町 本所区柳原町	木造	焼失
119	吾妻橋	本所	本所区中ノ郷竹町 淺草区花川戸町	鐵造	鐵部残在木部焼失
120	吾妻板橋	本所	本所区中ノ郷竹町 淺草区花川戸町	木造	焼失

番号	名称	区	所在	構造別	破損別
121	彌勒寺橋	本所	本所区林町3丁目 深川区東森下町	木造	焼失
122	横川橋	本所	本所区中ノ郷横川町 本所区大手町	木造	焼失
123	八反目橋	本所	本所区小梅町	木造	焼失
124	庚申塚橋	本所	本所区中ノ郷小梅瓦町	木造	焼失
125	松井橋	本所	本所区松井町1丁目 本所区松井町2丁目	木造	焼失
126	山城橋	本所	本所区松井町1丁目 本所区松井町3丁目	木造	焼失
127	松花橋	本所	本所区緑町2、3丁目 本所区南二葉町	木造	焼失
128	千歳橋	本所	本所区緑町3丁目 本所区南二葉町	木造	焼失
129	菊川橋	本所	本所区菊川町 深川区東町	鐵造	鐵部殘在 木部焼失
130	若葉橋	本所	本所区緑町4丁目 本所区南二葉町	木造	焼失
131	箕龜橋	本所	本所区长崎町 本所区清水町	木造	焼失
132	松下橋	本所	本所区松倉町2丁目27番地 本所区横川町	木造	焼失
133	若松橋	本所	本所区松倉町1丁目 本所区若宮町	木造	焼失
134	木橋	本所	本所区柳島横川町131番地	木造	焼失
135	六萬橋	本所	本所区柳島梅森町138 本所区押上町	木造	焼失
136	水門橋	本所	本所区中ノ郷業平町 本所区小梅瓦町	木造	焼失
137	土橋	本所	本所区押上町237 本所区柳島梅森町92	木造	焼失
138	押上橋	本所	本所区押上町 本所区向島押上町	木造	焼失
139	小梅橋	本所	本所区業平町 本所区小梅町瓦町	木造	焼失
140	美登利橋	本所	本所区南二葉町 本所区緑町公園	木造	焼失
141	京成橋	本所	本所区押上町 本所区向島押上町	木造	焼失
142	永代橋	深川	深川区相川町 京橋区大川端町	鐵造	鐵部殘在 木部焼失
143	永代假橋	深川	深川区相川町 京橋区大川端町	木造	焼失
144	緑橋	深川	深川区松賀町 深川区一色町	木造	焼失
145	下之橋	深川	深川区佐賀町1丁目 深川区佐賀町2丁目	木造	焼失
146	千鳥橋	深川	深川区堀川町 深川区松賀町	木造	焼失
147	永居橋	深川	深川区大和町 深川区敷矢町	木造	焼失
148	元木橋	深川	深川区堀川町 深川区材木町	木造	焼失
149	相生橋	深川	深川区永堀町1丁目 深川区萬年町1丁目	木造	焼失
150	中島橋	深川	深川区中島町 深川区大島町	木造	焼失
151	松島橋	深川	深川区蛤町1丁目 深川区蛤町2丁目	木造	焼失
152	蓬萊橋	深川	深川区富岡門前町 深川区佃町	木造	焼失
153	平野橋	深川	深川区入船町 深川区平久町	木造	焼失
154	越中島橋	深川	深川区大島町 深川区越中島町	木造	焼失
155	丸太橋	深川	深川区材木町 深川区龜住町	木造	焼失
156	汐見橋	深川	深川区敷矢町 深川区入船町	木造	焼失
157	入船橋	深川	深川区入船町 深川区島田町	木造	焼失
158	富島橋	深川	深川区吉永町 深川区三好町	木造	焼失
159	上之橋	深川	深川区佐賀町1丁目 深川区清住町	木造	焼失
160	要橋	深川	深川区吉永町 深川区扇町	木造	焼失

番号	名称	区	所在	構造別	破損別
161	崎川橋	深川	深川区茂森町 深川区久永町	木造	焼失
162	海邊橋	深川	深川区萬年町 深川区伊勢崎町	木造	焼失
163	龜久橋	深川	深川区龜久町 深川区東平野町	木造	焼失
164	吉岡橋	深川	深川区東平野町 深川区吉永町	木造	焼失
165	永本橋	深川	深川区山本町 深川区西永町	木造	焼失
166	青海橋	深川	深川区吉永町 深川区久永町	木造	焼失
167	山本橋	深川	深川区山本町 深川区靈岸町	木造	焼失
168	幾世橋	深川	深川区扇町 深川区茂森町	木造	焼失
169	福永橋	深川	深川区島崎町 深川区扇橋町	木造	焼失
170	猿江橋	深川	深川区西町 深川区猿江町	木造	焼失
171	嘉留橋	深川	深川区茂森町 深川区豊住町	木造	焼失
172	大榮橋	深川	深川区久永町 深川区石島町	木造	焼失
173	扇橋	深川	深川区扇橋町 深川区東扇橋町	木造	焼失
174	中之橋	深川	深川区佐賀町1丁目	木造	焼失
175	豊島橋	深川	深川区堀川町 深川区西永代町	木造	焼失
176	萬年橋	深川	深川区西大工町 深川区西元町	木造	焼失
177	新高橋	深川	深川区西町 深川区扇橋町	木造	焼失
178	中之橋	深川	深川区東六間堀町 深川区西六間堀町	木造	焼失
179	猿子橋	深川	深川区西元町 深川区常磐町	木造	焼失
180	北之橋	深川	深川区東六間堀町 深川区西六間堀町	木造	焼失
181	富士見橋	深川	深川区西平井町60番地先	木造	焼失
182	辨天橋	深川	深川区洲崎町西平井町	木造	焼失
183	黒龜橋	深川	深川区龜住町 深川区黒江町	木造	焼失
184	船木橋	深川	深川区入船町 深川区木場町	鐵造	鐵部殘在木部焼失
185	澤海橋	深川	深川区木場町 深川区西平井町	鐵造	鐵部殘在木部焼失
186	相生橋	深川	深川区越中島町 京橋区新佃島	木造	焼失
187	孝慈橋	深川	深川区伊勢崎町 深川区清住町	木造	焼失
188	古石場橋	深川	深川区古石場町11番地先	木造	焼失
189	黒船橋	深川	深川区蛤町 深川区古石場町	木造	焼失
190	入船橋	深川	深川区東元町	木造	焼失
191	小名木川橋	深川	深川区東扇橋町 深川区猿江町	木造	焼失
192	千田橋	深川	深川区千田町79番地先 深川区千田町93	木造	焼失
193	大塚橋	深川	深川区西森下町 深川区松町3丁目五間堀川	木造	焼失
194	平久橋	深川	深川区辨天河岸第一號地 深川区第二號地	木造	焼失
195	繁榮橋	深川	深川区木場町5番地先	木造	焼失
196	龜井橋	深川	深川区木場町8番地	木造	焼失
197	末廣橋	深川	深川区扇町 深川区吉永町	木造	焼失
198	時雨橋	深川	深川区平久町埋立地	木造	焼失
199	矢竹橋	深川	深川区平久町埋立地	木造	焼失
200	芦洲橋	深川	深川区平久町埋立地	木造	焼失

番号	名称	区	所在	構造別	破損別
201	千船橋	深川	深川区平久町埋立地	木造	焼失
202	江川場橋	深川	深川区和倉町 一番地先	木造	焼失
203	和倉橋	深川	深川区和倉町 深川公園	木造	焼失
204	大富橋	深川	深川区東大工町 深川区富川町	木造	焼失
205	巽橋	深川	深川区諸町 深川区中島町	木造	焼失
206	坂田橋	深川	深川区福住町 深川区伊瀬町	木造	焼失
207	石島橋	深川	深川区富岡門前町 深川区牡丹町	木造	焼失
208	木橋	深川	深川区猿江裏町134 深川区猿江裏町106番地	木造	焼失
209	共同橋	深川	深川区平久町1-1 深川区平富町2-3 古石場2-3	木造	焼失
210	福島橋	深川	深川区井島町 深川区諸町	木造	焼失
211	岩井橋	深川	深川区海邊町 府下南葛飾砂町字永田町	木造	焼失
212	清水橋	深川	深川区木村町188 南葛飾群大島町字深川本村84	木造	焼失
213	東仲之橋	深川	深川区深川公園 深川区富岡門前東仲町	木造	焼失

大正拾貳年九月一日震火災ノ爲被害ヲ受ケタル橋梁調

番号	名称	区	所在	構造別	破損別
1	常磐橋	麹町	麹町区大手町と錢瓶町境 日本橋区本町1丁目	石造	上部一小部分破損
2	有樂橋	麹町	麹町区有樂町 京橋区西紺屋町	木鐵混合造	小部分破損
3	鍛冶橋	麹町	麹町区八重洲町2丁目と有樂町1丁目 京橋区五郎兵衛町	鐵筋コンクリート造	上部高欄破損
4	新常磐橋	麹町	麹町区大手町2丁目 日本橋区本石町1丁目	コンクリート造	上部高欄破損
5	數寄屋橋	麹町	麹町区有樂町3丁目 京橋区元數寄屋町	鐵造	上部一部焼失
6	呉服橋	麹町	麹町区永樂町2丁目 日本橋区呉服町	鐵造	上部一小部分破損
7	和田倉橋	麹町	麹町区元千代田町 麹町区永樂町1丁目	木造	一部墜落
8	柳原橋	神田	神田区東龍閑町 神田区豊島町	鐵筋コンクリート造	一部破損
9	萬世橋	神田	神田区小柳町 神田区花房町	鐵造	一部破損
10	昌平橋	神田	神田区淡路町2丁目 神田区旅籠町	鐵筋コンクリート造	一部破損
11	大和橋	神田	神田区豊島町 神田区大和町	鐵造	一部破損
12	美倉橋	神田	神田区元久右衛門町1丁目 神田区豊島町	鐵造	一部破損
13	佐久間橋	神田	神田区佐久間町38 神田区佐久間町1丁目3番地	鐵造	一部破損
14	和泉橋	神田	神田区佐久間町 神田区岩本町	鐵造	上半部焼失
15	龍閑橋	日本橋	日本橋区本銀町1丁目 神田区千代田町	鐵筋コンクリート造	一部破損
16	一石橋	日本橋	日本橋区北鞘町 日本橋区西河岸町	鐵筋コンクリート造	一部破損
17	江戸橋	日本橋	日本橋区本船町 日本橋区四日市河岸	鐵造	一部破損
18	荒布橋	日本橋	日本橋区本船町 日本橋区小船町3丁目	石造	一部破損
19	九道橋	日本橋	日本橋区小傳馬上町 神田区東今川町	鐵造	一部破損
20	土州橋	日本橋	日本橋区箱崎町4丁目 日本橋区蠣殻町3丁目	鐵造	一部破損
21	録橋	日本橋	日本橋区通油町 日本橋区通鹽町	石造	一部破損
22	日本橋	日本橋	日本橋区通1丁目 日本橋区室町1丁目	石造	一部破損
23	今川橋	日本橋	日本橋区本銀町2丁目 神田区西今川町	鐵造	一部破損
24	鞍掛橋	日本橋	日本橋区小傳馬町3丁目 日本橋区馬喰町1丁目	鐵造	一部破損
25	海運橋	日本橋	日本橋区兜町 日本橋区本材木町1丁目	石造	一部破損
26	比丘尼橋	京橋	京橋区北紺屋町 京橋区南紺屋町	鐵造	一部破損
27	櫻橋	京橋	京橋区南八丁堀1丁目 京橋区本八丁堀1丁目	鐵造	一部破損
28	萬年橋	京橋	京橋区采女町 京橋区築地3丁目	鐵造	一部破損
29	輕子橋	京橋	京橋区築地1丁目 京橋区入船町7丁目	木造	一部破損
30	出雲橋	京橋	京橋区竹川町 京橋区木挽町	鐵造	一部破損
31	朝日橋	京橋	京橋区銀座3丁目 京橋区木挽町3丁目	鐵造	一部破損
32	月島橋	京橋	京橋区月島通6丁目 京橋区月島通7丁目	鐵造	一部破損
33	初見橋	京橋	京橋区震佃町 京橋区月島町1丁目1番地	鐵造	一部破損
34	靈岸橋	京橋	京橋区富島町 日本橋区南茅場町	鐵造	一部破損
35	高橋	京橋	京橋区本湊町1丁目 京橋区本八丁堀及日比谷町	鐵筋造	一部破損
36	三原橋	京橋	京橋区30間堀1丁目 京橋区木挽町4丁目	コンクリート造	一部破損
37	新月橋	京橋	京橋区新佃町1丁目 京橋区月島西仲通1丁目	木造	小部分焼失
38	京橋	京橋	京橋区銀座1丁目 京橋区南傳馬町3丁目	鐵造	一部破損
39	備前橋	京橋	京橋区築地2丁目 京橋区南小田原町4丁目	木造	小部分焼失
40	難波橋	芝	芝区芝口1丁目 京橋区日吉町	鐵造	一部破損

番号	名称	区	所在	構造別	破損別
41	蓬萊橋	芝	芝区汐留町1丁目 京橋区木挽町7丁目	石造	一部破損
42	將監橋	芝	芝区芝土手跡町 芝区新堀町	木造	一部破損
43	宇田川橋	芝	芝区宇田川町	石造	一部破損
44	芝園橋	芝	芝区新堀町 芝区芝公園	木造	一部破損
45	竹芝橋	芝	芝区南濱町 芝区芝浦町2丁目	鐵造	一部破損
46	香取橋	芝	芝区南濱町 芝区芝浦町2丁目	木造	一部破損
47	浦島橋	芝	芝区芝浦町1丁目 芝区芝浦町2丁目	木造	一部破損
48	潮路橋	芝	芝区芝浦町1丁目 芝区芝浦町2丁目	木造	一部破損
49	日出橋	芝	芝区日之出町 芝区芝浦町1丁目	木造	一部破損
50	金杉橋	芝	芝区土手跡町 芝区金杉町1丁目	鐵筋造	一部破損
51	新橋	芝	芝区芝口1丁目 京橋区南金六町	鐵造	一部破損
52	土橋	芝	芝区二葉町 京橋区丸屋町	鐵造	上部一部分焼失
53	藻鹽橋	芝	芝区新芝町 芝区芝浦3丁目	鐵造	一部破損
54	下柳堤橋	赤坂	赤坂区溜池町14番地先	木造	一部破損
55	市ヶ谷橋	牛込	牛込区八幡町 麹町区三番町	木造	一部破損
56	富坂橋	小石川	小石川区富坂下新坂内柳町下水流	木造	一部破損
57	左衛門橋	浅草	浅草区左衛門町 日本橋区馬喰町4丁目	鐵造	一部破損
58	榮久橋	浅草	浅草区北三筋町 浅草区榮久町	コンクリート造	一部破損
59	須賀橋	浅草	浅草区須賀町 浅草区藏前片町	鐵造	一部破損
60	浅草橋	浅草	浅草区茅町 日本橋区馬喰町4丁目	鐵造	一部破損
61	新堀橋	浅草	浅草区御藏前片町 浅草区福富町	木造	一部破損
62	松田橋	浅草	浅草区松葉町 浅草区田島町	木造	一部破損
63	柳橋	浅草	浅草区下平右衛門町 日本橋区元柳町	鐵造	一部破損
64	兩國橋	本所	本所区元町 日本橋区米澤町	鐵造	上部一部分焼失
65	御竹橋	本所	本所区龜澤町1丁目 本所区龜澤町2丁目	鐵筋造	上部一部分焼失
66	厩橋	本所	本所区外手町 浅草区黒船町	鐵造	木造部分焼失
67	吾妻橋	本所	本所区中ノ郷竹町 浅草区花川戸町	鐵造	木造部分焼失
68	伊豫橋	深川	深川区東森下町 深川区富川町	木造	一部破損
69	新大橋	深川	深川区西元町 日本橋区濱町	鐵造	一部破損
70	永代橋	深川	深川区相川町 京橋区大川端町	鐵造	木造部分焼失

大正拾貳年九月一日震火災(私設橋)焼失調

番号	名称	区	所在	構造別	破損別
1	近海橋	深川	深川区木場町14	木造	焼失
			深川区木場町15		
2	若木橋	深川	深川区木場町16	木造	焼失
			深川区木場町17		
3	鹿ノ子橋	深川	深川区木場町17	木造	焼失
4	徳永橋	深川	深川区西町2	木造	焼失
			深川区西町3		
5	青山橋	深川	深川区山本町3	木造	焼失
			深川区山本町4		
6	松枝橋	深川	深川区豊住町149	木造	焼失
			深川区豊住町156		
7	和泉橋	深川	深川区扇橋町25	木造	焼失
			深川区扇橋町16		
8	新木橋	深川	深川区石島町14	木造	焼失
9	關口橋	深川	深川区蛤町1丁目4番地	木造	焼失
			深川区黒江町14		
10	寶橋	深川	深川区古石場町12	木造	焼失
11	琴平橋	深川	深川区古石場町21	木造	焼失
			深川区古石場町22		
12	中ノ橋	深川	深川区木場町10	木造	焼失
			深川区木場町16		
13	正平橋	深川	深川区木場町8	木造	焼失
			深川区木場町18		
14	伊豆美橋	深川	深川区和倉町35	木造	焼失
15	睦橋	深川	深川区和倉町33	木造	焼失
			深川区和倉町34		
16	永喜橋	深川	深川区和倉町30	木造	焼失
			深川区和倉町31		
17	武田橋	深川	深川区大和町1	木造	焼失
			深川区大和町2		
18	龜壽橋	深川	深川区大和町2	木造	焼失
19	大和橋	深川	深川区大和町	木造	焼失
			深川区鶴歩町2		
20	鶴立橋	深川	深川区鶴歩町2	木造	焼失
21	鶴壽橋	深川	深川区鶴歩町2	木造	焼失
			深川区扇町		
22	坂田橋	深川	深川区扇町1	木造	焼失
			深川区扇町2		
23	築島橋	深川	深川区木場町	木造	焼失
			深川区島田町7		
24	清水橋	深川	深川区入舟町2	木造	焼失
25	恵比須橋	深川	深川区數矢町14	木造	焼失
			深川区數矢町15		
26	太田橋	深川	深川区久永町2	木造	焼失
27	栗谷橋	深川	深川区三好町4	木造	焼失
			深川区三好町5		
28	美芳橋	深川	深川区三好町3	木造	焼失
			深川区三好町4		
29	山水橋	深川	深川区三好町2	木造	焼失
30	西永橋	深川	深川区西永町1	木造	焼失
			深川区靈岸町168		
31	萬代橋	深川	深川区山本町1	木造	焼失
32	西平野橋	深川	深川区東平野町1	木造	焼失
			深川区西平野町17		
33	野口橋	深川	深川区冬木町10	木造	焼失
34	小川橋	深川	深川区冬木町10	木造	焼失
			深川区冬木町11		
35	太田橋	深川	深川区西平井町71	木造	焼失
			深川区西平井町62		
36	古川橋	深川	深川区西平井町77	木造	焼失
			深川区西平井町96		
37	久榮橋	深川	深川区西平井町78	木造	焼失
			深川区西平井町468		
38	平井橋	深川	深川区東平井町44	木造	焼失
			深川区東平井町46		
39	石小田橋	深川	深川区東平井町441	木造	焼失
			深川区東平井町426		
40	豊平橋	深川	深川区東平井町419	木造	焼失
			深川区豊住町289		

番号	名称	区	所在	構造別	破損別
41	板橋	深川	深川区豊住町156	木造	焼失
42	舞鶴橋	深川	深川区豊住町136	木造	焼失
43	井住橋	深川	深川区東平井町46 深川区豊住町66	木造	焼失
44	巽橋	深川	深川区千田町614 深川区千田町610	木造	焼失
45	長島橋	深川	深川区千田町1	木造	焼失
46	榮祿橋	深川	深川区石島町16	木造	焼失
47	板橋	深川	深川区千田町69、川南小學校前	木造	焼失
48	山下橋	深川	深川区東扇橋町16 深川区東扇橋町10	木造	焼失
49	入水橋	深川	深川区石島町7	木造	焼失
50	石島橋	深川	深川区石島町12	木造	焼失
51	友田橋	深川	深川区扇橋町2丁目2	木造	焼失
52	製鋼橋	深川	深川区東大工町1 深川区東大工町48	木造	焼失
53	宮城橋	深川	深川区清住町1 深川区浅野セメント製造所前	木造	焼失
54	細川橋	深川	深川区常盤町1丁目7 深川区西元町1	木造	焼失
55	櫻橋	深川	深川区富川町2 深川区富川町3	木造	焼失
56	通運橋	深川	深川区富川町1 深川区富川町2	木造	焼失
57	鶴歩橋	深川	深川区鶴歩町 深川区大和町	木造	焼失
58	豊榮橋	深川	深川区豊住町269 深川区千田町614	木造	焼失
59	中鹿橋	深川	深川区木場町15	木造	焼失
60	岡吉橋	深川	深川区西平井町197	木造	焼失
61	長谷川橋	深川	深川区豊住町269	木造	焼失
62	住吉橋	深川	深川区木場町15 深川区木場町16	木造	焼失
63	横相橋	深川	深川区豊住町208 深川区豊住町269	木造	焼失
64	加藤橋	深川	深川区豊住町195	木造	焼失
65	丸木橋	深川	深川区豊住町136	木造	焼失
66	銚子場橋	深川	深川区東大工町6 深川区東大工町9	木造	焼失
67	板橋	神田	神田区佐久間町1丁目15 神田区佐久間町1丁目11	木造	焼失
68	大久保橋	本所	本所区東森下町22 本所区林町	木造	焼失
69	板橋	本所	本所区柳島梅森町84 本所区押上町228	木造	焼失
70	板橋	本所	本所区小糸町35 本所区横綱町1丁目	木造	焼失
71	塚橋	本所	本所区柳原町3丁目10	木造	焼失
72	山名橋	本所	本所区柳原町3丁目17 本所区柳原町3丁目18	木造	焼失
73	中ノ橋	本所	本所区錦糸町295 本所区太平町1丁目	木造	焼失
74	伊藤橋	京橋	京橋区新富町4丁目9	木造	焼失
75	汐入橋	日本橋	日本橋区蠣殻町3丁目10	木造	焼失
76	豊住橋	深川	深川区豊住町131 深川区千田町1	木造	焼失

大震火災焼燬大破橋梁調査

番号	名称	所在	構造別	破損別
1	神田橋	麹町区大手町2-1 神田区美土代町1-23	木骨アスファルト	焼燬
2	常盤橋	麹町区錢瓶町1 日本橋区本石町1-1	石造	左右歩道大破
3	敷寄屋橋	麹町区有楽町3-1 京橋区元敷寄屋町1	鐵骨造	南寄歩道大破
4	一ツ橋	麹町区元衛町1 神田区一ツ橋町1	木造	焼燬
5	御茶ノ水橋	神田区駿河台鈴木町21 本郷区湯島町3丁目	鐵骨造	一部焼燬及大破
6	和泉橋	神田区柳原河岸 神田区佐久間町2-1	鐵骨造	両歩道焼燬及大破
7	岩井橋	神田区岩井河岸 神田区江川町42	木造	焼燬
8	橋本橋	神田区材木町17 神田区本町1-14	木造	焼燬
9	玉出橋	神田区材木町17 日本橋区龜井町12	木造	焼燬
10	甚兵衛橋	神田区東今川町9 神田区小樽馬上町10	木造	焼燬
11	火除橋	神田区東今川町1 日本橋区大傳馬鹽町2	木造	焼燬
12	地藏橋	神田区美倉町14 日本橋区本銀町4-16	木造	焼燬
13	東仲ノ橋	神田区東乗物町14 日本橋区本銀町3-13	木造	焼燬
14	西仲橋	神田区西今川町4 日本橋区本銀町2-12	木造	焼燬
15	白旗橋	神田区西今川町2 日本橋区本銀町1-18	木造	焼燬
16	西河岸橋	日本橋区西河岸 日本橋区裏河岸	鐵及木造	焼燬
17	兜橋	日本橋区本材木町1-1 日本橋区兜町2	鐵及木造	焼燬
18	新場橋	日本橋区楓河岸 日本橋区本材木河岸	木造	焼燬
19	千代田橋	日本橋区楓河岸 日本橋区本材木河岸	鐵及木造	焼燬
20	鐘橋	日本橋区兜町6 日本橋区鐘河岸	鐵骨木石造	焼燬
21	小網橋	日本橋区小網町2-1 日本橋区小網町1-11	木造	焼燬
22	親父橋	日本橋区西萬河岸 日本橋区東萬河岸	木造	焼燬
23	萬橋	日本橋区西萬河岸 日本橋区東萬河岸	木造	焼燬
24	中之橋	日本橋区 日本橋区小舟河岸	木造	焼燬
25	箱崎橋	日本橋区永久河岸 日本橋区小網3-28	木造	焼燬
26	永久橋	日本橋区箱崎町2-10 日本橋区蠟鼓町1-1	木造	焼燬
27	汐入橋	日本橋区蠟鼓町3-10 日本橋区蠟鼓町3-11	木造	焼燬
28	川口橋	日本橋区蠟鼓町3-11 日本橋区濱町3-1	木造	焼燬
29	女橋	日本橋区濱町3-1 日本橋区中洲町1號	木造	焼燬
30	男橋	日本橋区菖蒲河岸 日本橋区中洲町23	木造	焼燬
31	仲ノ橋	日本橋区蠟鼓町3-12 日本橋区濱町3-1	鐵骨木造	焼燬
32	蠟鼓橋	日本橋区蠟鼓町2-13 日本橋区濱町2-17	木造	焼燬
33	久松橋	日本橋区浪花町6 日本橋区久松町38	木造	焼燬
34	小川橋	日本橋区浪花町6 日本橋区久松町40	鐵骨	左右人道焼燬
35	高砂橋	日本橋区高砂町8 日本橋区久松町45	木造	焼燬墜落
36	榮橋	日本橋区富澤町11 日本橋区久松町14	木造	焼燬墜落
37	千鳥橋	日本橋区元濱町7 日本橋区橋町1-6	木造	焼燬墜落
38	汐見橋	日本橋区元濱町1 日本橋区橋町1-1	木造	焼燬墜落
39	竹森橋	日本橋区龜井町12 日本橋区馬喰町1-20	木造	焼燬墜落
40	木挽橋	京橋区東豊玉河岸28 京橋区西豊玉河岸28	木造	焼燬墜落
41	朝日橋	京橋区東豊玉河岸48 京橋区西豊玉河岸53	木造	焼燬墜落
42	豊玉橋	京橋区東豊玉河岸54 京橋区西豊玉河岸54	木造	焼燬墜落
43	紀ノ國橋	京橋区東豊玉河岸59 京橋区東豊玉河岸59	木造	焼燬墜落
44	水谷橋	京橋区白魚河岸4 京橋区銀座1-16	木造	焼燬墜落
45	炭橋	京橋区白魚河岸6 京橋区竹河岸26	木造	焼燬墜落
46	白魚橋	京橋区白魚河岸28 京橋区竹河岸26	木造	焼燬墜落
47	仲ノ橋	京橋区南櫻河岸38 京橋区北櫻河岸37	木造	焼燬墜落
48	稲荷橋	京橋区南櫻河岸62 京橋区北櫻河岸64	木造	焼燬墜落
49	新船見橋	京橋区南櫻河岸27 京橋区南櫻河岸28	木造	焼燬墜落
50	船見橋	京橋区新富町45 京橋区新富河岸12	木造	焼燬墜落
51	新富橋	京橋区新富町7-3 京橋区新富河岸9號	木造	焼燬墜落
52	南新富橋	京橋区新富町7-6 京橋区新富河岸1號	木造	焼燬墜落
53	合引橋	京橋区築地1-1 京橋区新富町5-13	木造	焼燬墜落
54	龜井橋	京橋区築地2-1 京橋区木挽町2-13	木造	焼燬墜落
55	祝橋	京橋区築地2-6 京橋区木挽町3-16	木造	焼燬墜落
56	采女橋	京橋区采女町33 京橋区築地3-15	木造	焼燬墜落
57	汐先橋	京橋区木挽町8-2 京橋区汐留町1丁目	木造	焼燬墜落
58	起生橋	京橋区築地3-109 京橋区築地町施療病院前	木造	焼燬墜落
59	南小田原橋	京橋区築地3-109 京橋区築地小田原町1-5	木造	焼燬墜落
60	新榮橋	京橋区小田原町3-10 京橋区明石町62	木造	焼燬墜落
61	塚橋	京橋区小田原町4-1 京橋区明石町61	木造	焼燬墜落
62	明石橋	京橋区南飯町1 京橋区明石河岸	木造	焼燬墜落
63	浦堀橋	京橋区明石町27 京橋区明石町28	木造	焼燬墜落
64	見當橋	京橋区新湊町5-1 京橋区新船松町15	木造	焼燬墜落
65	小橋	京橋区新湊町1 京橋区本湊町21	木造	焼燬墜落
66	高橋	京橋区日比谷河岸37 京橋区將監河岸35	木造	焼燬墜落
67	龜島橋	京橋区川口町1 京橋区龜島河岸5	木造	焼燬墜落
68	新龜島橋	京橋区川口町10 京橋区龜島河岸	木造	焼燬墜落
69	一ノ橋	京橋区龜島町5 京橋区富島町1	木造	焼燬墜落
70	二ノ橋	京橋区南新川河岸19 京橋区北新川河岸14	木造	焼燬墜落
71	三ノ橋	京橋区南新川河岸18 京橋区北新川河岸28	木造	焼燬墜落
72	廻漕橋	京橋区銀町2-14 京橋区越前堀町2-7	木造	焼燬墜落
73	榮橋	京橋区銀町2-2 京橋区新船松町4	木造	焼燬墜落
74	湊橋	京橋区南新堀河岸2 京橋区北新堀河岸	木造	焼燬墜落
75	豊海橋	京橋区南新堀河岸26 京橋区北新堀町21	木造	焼燬墜落
76	永代橋	深川区福河岸9 深川区古川河岸	鐵骨木造	焼燬墜落
77	彈正橋	京橋区本材木河岸1 京橋区高代町1	鐵骨木造	焼燬墜落
78	新彈正橋	京橋区本材木町河岸11 京橋区高代町4	鐵骨	歩道兩側墜落
79	松橋	京橋区本材木河岸14 京橋区高代町6	木造	焼燬墜落
80	久安橋	京橋区本材木河岸44 京橋区楓河岸10	木造	焼燬墜落
81	相生橋	京橋区新佃島町3-6 深川区越中島町	木造	焼燬墜落
82	佃橋	京橋区佃島町42 京橋区西河岸通り1-1	木造	焼燬墜落
83	濱前橋	京橋区西河岸通り11-8 京橋区月島通り12丁目3號地	木造	焼燬墜落
84	新島橋	京橋区月島通り11-7 京橋区月島通り12丁目3號地	木造	焼燬墜落
85	新濱橋	芝区芝浦製作所 日ノ出町8番地	木造	焼燬
86	汐留驛貨物搬出専用橋	芝区汐留驛構内 京橋区木挽町8丁目	木造	焼燬
87	汐留驛貨物搬入専用橋	芝区汐留驛構内 京橋区木挽町8丁目	木造	焼燬
88	濱離宮へ通スル橋名不詳	芝区汐留2丁目 濱離宮	木造	焼燬
89	私道二架スル無名橋	芝区汐留2丁目1番地	木造	焼燬
90	新錢座橋	芝区新錢座町1番組 芝区宇田川町10番地	木造	焼燬
91	組橋	麹町区飯田町1-10 神田区今小路3-1	鐵骨木造表面コンクリート叩	焼燬

番号	名称	所在	構造別	破損別
92	新川橋	麴町区飯田町4-12 神田区西小川町1-8	木造	焼燬
93	新飯田橋	麴町区飯田町4-30 神田区三崎町1	木造	焼燬
94	新三崎橋	麴町区飯田町4-30 神田区三崎町1	木造	焼燬
95	三崎橋	麴町区飯田河岸32號地 神田区三崎河岸16號地	木造	焼燬
96	小石川橋	麴町区飯田河岸32號地 小石川区市兵衛河岸8號河岸	木造	焼燬
97	吾妻橋	浅草区材木町 本所区竹町	鐵骨造	木部焼失
98	蔵橋	浅草区諏訪町 本所区外手町	鐵骨造	木部焼失
99	今戸橋	浅草区金龍山瓦町17 浅草区今戸町1	鐵骨造	木部焼失
100	正法寺橋	浅草区地方今戸町75 浅草区吉野町8	木造	焼燬
101	髪洗橋	浅草区地方今戸町57 浅草区吉野町70	木造	焼燬
102	地方橋	浅草区地方今戸町85 浅草区地方今戸町26	土造	墜落
103	富坂橋	浅草区榮久町11 浅草区東三筋町15	木造	焼燬
104	三筋橋	浅草区東三筋町28 浅草区榮久町17	木造	焼燬
105	無名橋	浅草区榮久町64 浅草区阿部川町43	木造	焼燬
106	一ノ橋	本所区千歳町川岸23號地 本所区相生町1-3	木造	焼燬
107	三ノ橋	本所区花町1 本所区南堅川河岸29	木造	焼燬大破
108	堅川橋	本所区林町2丁目堅川河岸2 本所区線町2-6	木造	焼燬大破
109	松井橋	本所区松井町2-1 本所区松井町1-8	木造	焼燬
110	山城橋	本所区松井町2-1 本所区松井町1-24	木造	焼燬
111	彌勒寺橋	深川区東森下町19 本所区松井町3-20	木造	焼燬墜落
112	菊川橋	本所区菊川町2-6 本所区柳原町3-20	鐵骨コンクリート造	焼燬大破
113	松花橋	本所区南二葉町22 本所区線町4-3	木造	焼燬
114	千歳橋	本所区南二葉町35 本所区線町4-3	木造	焼燬
115	若葉橋	本所区三笠町1 本所区線町5-28	木造	焼燬
116	箕龜橋	本所区清水町1 本所区長崎町8	木造	焼燬
117	長崎橋	本所区清水町2 本所区太平町1-12	木造	焼燬
118	新山城橋	深川区西森下町52 本所区松井町3-2	木造	焼燬
119	北ノ橋	深川区森下町51 本所区松井町3-2	木造	大破墜落
120	新橋	本所区太平町1-13 本所区錦糸町1	木造	大破墜落
121	江東橋	本所区柳原町1-145 本所区長崎町14	木造	大破墜落
122	北辻橋	本所区花町17 本所区柳原町1-1	木造	大破墜落
123	新辻橋	本所区柳原町1-1 本所区柳原町3-2	木造	大破墜落
124	南辻橋	本所区柳原町3-1 本所区菊川町1-5	木造	大破墜落
125	四ノ橋	本所区松代町1-2 本所区木村町	木造	大破墜落
126	旅所橋	本所区松代町3-5 本所区府下龜戸	木造	大破墜落
127	源森橋	本所区新小梅町2 本所区中ノ郷瓦町30	木造	焼燬
128	枕橋	本所区中ノ郷瓦町 本所区新小梅町1	木造	焼燬
129	八反目橋	本所区小梅瓦町42 本所区小梅瓦町72	木造	焼燬
130	庚申塚橋	本所区向島中ノ郷町15 本所区向島中ノ郷町1	木造	焼燬
131	小梅橋	本所区小梅瓦町52 本所区中ノ郷業平町8	木造	焼燬
132	押上橋	本所区向島押上町141 本所区向島押上町25	木造	焼燬
133	法恩寺橋	本所区太平町1-69 本所区清水町2	鐵骨石造	人道車道両側墜落
134	六下橋	本所区柳島梅森町127 本所区中ノ郷業平町183	木造	焼燬
135	無名橋	本所区柳島梅森町109 本所区中ノ郷業平町283	木造	焼燬
136	無名橋	本所区柳島横川町35 本所区柳島元町1	木造	焼燬
137	横川橋	本所区太平町1-45 本所区中ノ郷横川町1	木造	焼燬
138	業平橋	本所区中ノ郷業平町171 本所区中ノ郷八軒町52	鐵骨木造	焼燬
139	無名橋	本所区松倉町2-58 本所区横川町38	木造	焼燬
140	無名橋	本所区松倉町2-26 本所区横川町60	木造	焼燬
141	無名橋	本所区松倉町2-51 本所区横川町64	木造	焼燬
142	平久橋	深川区平久町1-1 深川区平久町1-1	木造	焼燬墜落
143	共同橋	深川区平久町1-1 深川区平富町2-4	木造	焼燬墜落
144	汐見橋	深川区入舟町7 深川区数矢町7	石造	大破
145	金比羅橋	深川区古石場町21 深川区古石場町22	木造	焼燬墜落
146	關口橋	深川区古石場町15 深川区古石場町17	木造	焼燬墜落
147	古石場橋	深川区古石場町13 深川区古石場町11	木造	焼燬墜落
148	寶橋	深川区古石場町13 深川区古石場町12	木造	焼燬墜落
149	石島橋	深川区古石場町13 深川区蛤町2-13	木造	焼燬墜落
150	蓬萊橋	深川区富岡門前町31 深川区佃町1	木造	焼燬墜落
151	黒舟橋	深川区蛤町2-7 深川区古石場町5	木造	焼燬墜落
152	越中島橋	深川区越中島町1 深川区大島町9	木造	焼燬墜落
153	松島橋	深川区大島町7 深川区蛤町2-1	木造	焼燬
154	中島橋	深川区大島町6 深川区中島町23	木造	焼燬
155	巽橋	深川区中島町2 深川区諸町8	木造	焼燬
156	福島橋	深川区諸町3 深川区中島町1	鐵筋コンクリート造	焼燬大破
157	坂田橋	深川区福生町7 深川区伊澤町1	木造	焼燬
158	外記殿橋	深川区黒江町14 深川区蛤町1-8	木造	焼燬
159	無名橋	深川区数矢町13 深川区数矢町16	木造	焼燬
160	永居橋	深川区数矢町16 深川区大和町3	木造	焼燬
161	武田橋	深川区大和町2 深川区大和町1	木造	焼燬
162	和倉橋	深川区和倉町23 深川区深川公園	木造	焼燬
163	龜住橋	深川区大和町3 深川区大和町2	木造	焼燬
164	永喜橋	深川区和倉町33 深川区和倉町31	木造	焼燬
165	陸橋	深川区和倉町33 深川区和倉町34	木造	焼燬
166	湊橋	深川区和倉町35 深川区和倉町34	木造	焼燬
167	無名橋	深川区和倉町35 深川区和倉町35	木造	焼燬
168	江川場橋	深川区和倉町1 深川区龜井町30	木造	焼燬
169	丸太橋	深川区龜住町11 深川区材木町16	木造	焼燬
170	元木橋	深川区材木町1 深川区堀川町3	木造	焼燬
171	千鳥橋	深川区堀川町5 深川区松賀町8	木造	焼燬
172	緑橋	深川区松賀町7 深川区一色町23	木造	焼燬
173	豊島橋	深川区西永代町7 深川区松賀町3	木造	焼燬
174	下ノ橋	深川区松賀町1-21 深川区松賀町2-18	木造	焼燬
175	中ノ橋	深川区加賀町1-1 深川区加賀町12	木造	焼燬
176	相生橋	深川区永堀町7 深川区萬年町1-14	木造	焼燬
177	海邊橋	深川区萬年町2-6 深川区西平野町1	木造	焼燬
178	小川橋	深川区冬木町10 深川区冬木町10	木造	焼燬
179	野口橋	深川区冬木町10番地	木造	焼燬
180	大和橋	深川区大和町22 深川区鶴歩町2	木造	焼燬
181	岡田橋	深川区西平井町197 深川区西平井町197	木造	焼燬
182	里三橋	深川区東平井町19 深川区豊住町289	木造	焼燬

番号	名称	所在	構造別	破損別
183	石小田橋	深川区東平井町422 深川区東平井町441	木造	焼燬
184	平井橋	深川区東平井町451 深川区東平井町466	木造	焼燬
185	井住橋	深川区西平井町446 深川区豊住町137	木造	焼燬
186	久永橋	深川区西平井町78 深川区東平井町48	木造	焼燬
187	古川橋	深川区西平井町77 深川区西平井町96	木造	焼燬
188	太田橋	深川区西平井町71 深川区西平井町63	木造	焼燬
189	長谷川橋	深川区豊住町431 深川区豊住町438	木造	焼燬
190	加藤橋	深川区豊住町128 深川区木場町136	木造	焼燬
191	豊住橋	深川区豊住町465 深川区千田町1	木造	焼燬
192	武市橋	深川区豊住町1 深川区豊住町1	木造	焼燬
193	壘井橋	深川区扇町3 深川区木場町8	木造	焼燬
194	豊榮橋	深川区豊住町465 深川区海邊町668	木造	焼燬
195	鶴壽橋	深川区鶴歩町3 深川区扇町2	木造	焼燬
196	鶴立橋	深川区鶴歩町3 深川区鶴歩町3	木造	焼燬
197	坂田橋	深川区扇町1 深川区扇町2	木造	焼燬
198	幾世橋	深川区茂森町1 深川区扇町5	木造	焼燬
199	範田橋	深川区茂森町1 深川区木場町18	木造	焼燬
200	カル橋	深川区茂森町1 深川区豊住町1	木造	焼燬
201	無名橋	深川区木場町19 深川区木場町19	木造	焼燬
202	無名橋	深川区木場町19番地	木造	焼燬
203	無名橋	深川区木場町19番地	木造	焼燬
204	富士見橋	深川区豊住町1 深川区西平井町62	木造	焼燬
205	武市橋	深川区西平井町56 深川区木場町23	木造	焼燬
206	辨天橋	深川区洲崎町4 深川区西平井町1	木造	焼燬
207	平野橋	深川区入舟町14 深川区平久町2-1	木造	焼燬
208	千船橋	深川区平久町2-16 深川区鹽濱町1	木造	焼燬
209	時雨橋	深川区敷矢町1 深川区古石場町22	木造	焼燬
210	雲雀橋	深川区鹽濱町13 深川区鹽崎町1	木造	焼燬
211	芦洲橋	深川区平久町2-18 深川区鹽濱町4	木造	焼燬
212	矢竹橋	深川区平久町2-2 深川区鹽濱町1	木造	焼燬
213	入船橋	深川区入舟町6 深川区島田町9	木造	焼燬
214	清水橋	深川区入舟町6 深川区入舟町13	木造	焼燬
215	舟木橋	深川区入舟町2 深川区木場町	鐵骨木煉瓦	焼燬墜落
216	島田橋	深川区島田町7 深川区島田町7	木造	焼燬
217	澤海橋	深川区木場町30 深川区西平井町2	鐵骨コンクリート造	焼燬墜落
218	きんかい橋	深川区木場町14 深川区木場町19	木造	焼燬
219	中鹿橋	深川区木場町15 深川区木場町15	木造	焼燬
220	住吉橋	深川区木場町15 深川区木場町16	木造	焼燬
221	中ノ橋	深川区木場町16 深川区木場町10	木造	焼燬
222	若木橋	深川区木場町10 深川区木場町17	木造	焼燬
223	松ノ橋	深川区木場町17 深川区木場町18	木造	焼燬
224	繁榮橋	深川区木場町17 深川区木場町18	木造	焼燬
225	鶴歩橋	深川区鶴歩町1 深川区大和町1	木造	焼燬
226	無名橋	深川区木場町17	木造	焼燬
227	萬年橋	深川区西元町1 深川区西大工町54	石造	焼燬墜落
228	北ノ橋	深川区西六間堀35 深川区東六間堀28	鐵骨コンクリート造	焼燬墜落
229	中ノ橋	深川区西六間堀2 深川区東六間堀11	鐵骨コンクリート造	焼燬墜落
230	猿子橋	深川区西元町8 深川区常盤町7	鐵骨石造	焼燬墜落
231	細川橋	深川区西元町 深川区常盤町7	木造	焼燬墜落
232	入船橋	深川区東元町13 深川区東元町14	木骨石造	焼燬墜落
233	淺野橋	深川区富川町2 深川区富川町2	木造	焼燬墜落
234	通運橋	深川区富川町1 深川区富川町2	鐵骨石造	焼燬大破
235	菊川橋	本所区菊川町 深川区東町27	鐵骨石造	焼燬大破
236	猿江橋	深川区西町1 深川区猿江町2	木骨石造	焼燬墜落
237	扇橋	深川区扇橋町1-2 深川区東扇橋町6	木造	焼燬墜落
238	新高橋	深川区西町1 深川区扇橋町1-2	木骨石造	焼燬墜落
239	大富橋	深川区富川町3 深川区東大工町46	木骨石造	焼燬墜落
240	榎本橋	深川区東大工町47 深川区東大工町48	木造	大破
241	銚子場橋	深川区東大工町8 深川区東大工町9	木造	大破
242	上ノ橋	深川区清住町1 深川区佐賀町1-1	木造	焼燬墜落
243	宮城橋	深川区清住町1 深川区清住町1	木造	焼燬墜落
244	孝慈橋	深川区清住町1 深川区伊勢崎町35	石造	焼燬墜落
245	川島橋	深川区西平野町17 深川区東平野町1	石造	焼燬墜落
246	龜久橋	深川区東平野町34 深川区龜住町17	木造	焼燬墜落
247	吉岡橋	深川区東平野町1 深川区吉永町1	石造	石造大破
248	要橋	深川区吉永町11 深川区扇町12	木造	焼燬墜落
249	末廣橋	深川区吉永町6 深川区扇町9	木造	焼燬墜落
250	青海橋	深川区吉永町6 深川区久永町7	木造	焼燬墜落
251	太田橋	深川区久永町14 深川区茂森町2	木造	焼燬墜落
252	崎川橋	深川区久永町14 深川区茂森町2	木造	焼燬墜落
253	大榮橋	深川区久永町15 深川区石島町15	木造	焼燬墜落
254	福永橋	深川区扇橋2-8 深川区島崎町4	木造	焼燬墜落
255	栗谷橋	深川区三好町4 深川区三好町5	木造	焼燬墜落
256	三好橋	深川区三好町1 深川区三好町2	木造	焼燬墜落
257	山本橋	深川区三好町1 深川区三好町2	木造	焼燬墜落
258	宮島橋	深川区西永町1 深川区吉永町7	木造	焼燬墜落
259	永木橋	深川区山本町6 深川区西永町1	木造	焼燬墜落
260	青山橋	深川区山本町7 深川区山本町8	木造	焼燬墜落
261	徳永橋	深川区西永町2番地	木造	焼燬墜落
262	榮録橋	深川区石島町14 深川区石島町14	木造	焼燬墜落
263	長島橋	深川区千田町1番地	木造	焼燬墜落
264	千田橋	深川区千田町1番地	木造	焼燬墜落
265	夕ツミ橋	深川区千田町614	木造	焼燬墜落
266	石島橋	深川区石島町13	木造	焼燬墜落
267	入水橋	深川区石島町8	木造	焼燬墜落
268	山下橋	深川区東扇橋町6 深川区扇町2	木造	焼燬墜落
269	泉橋	深川区東扇橋町25	木造	焼燬墜落
270	小名木川橋	深川区東扇橋町32 深川区猿江町67	木造	焼燬墜落
271	岩井橋	深川区海邊町10 深川区郡部	木造	焼燬墜落
272	三島橋	深川区東扇橋町158 深川区郡部	木造	焼燬墜落
273	大島橋	深川区上大島町19 深川区郡部	木造	焼燬墜落